

古事記傳二十三之卷

水垣宮

水垣宮

御真木入日子伊恩命坐師木

水垣宮治天下也此天皇娶木

國造名荒河乃辨之類

遠津牟魚目目繼比賣生御子

古事記傳二十三之卷

水垣宮卷

本居宣長謹撰



御真木入日子印惠命坐師木

ミヤニマシクテアメノシタシロシメシキコノスメラミコトキ

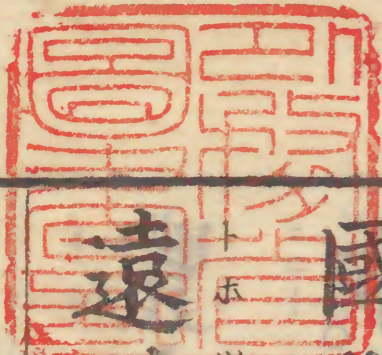
水垣宮治天下也此天皇娶木

クニノミヤツコナハアラカハトベムスメ

國造名荒河刀辨之女

トハツノアユメヌクハレヒメヲメシテウミマセルミ

遠津牟魚目目微比賣生御子



トヨキイリビコノミコトツギニトヨスキイリビメノ
豊木入日子命。次豊鉏入日賣

ミコト。二。マタヲハリノムラジノオヤオホア
命。柱。又娶尾張連之祖意富阿

マヒメヲメレテウミセルミコオホイリキノミコトツギニヤ
麻比賣生御子。大入杵命。次八

サカノイリビコノミコトツギニヌナキノイリ
坂之入日子命。次沼名木之入

ビメノミコトツギニトヲチノイリビメノミコト
日賣命。次十市之入日賣命。柱。四

マタオホビコノミコトノユムスメミマツヒメノミコトニ
又娶大毘古命之女御真津比

ミアヒマレテウミセルミコイクメイリビコイ
賣命。生御子。伊玖米入日子伊

サチノミコト。伊玖米伊沙。ツギニイザノ
沙知命。知六字以音。次伊邪能

マワカノミコト。自伊至。ツギニクニカタヒメノミコト
真若命。能以音。次國片比賣命。

ツギニチバツクヤト。此三字。ヒメノミコト
次千千都父和。以音。比賣命。

ツギニ イガヒメノミコト ツギニ ヤマトヒ コノミコト
次伊賀比賣命。次倭日子命。六柱。

コノスメラミコトノ
此天皇之御子等并十二柱。男王。

ナハレラ
七。女。王。
イッハレラ
五也。

此天皇後の漢様乃御謚崇神天皇也申次。○師木ハ和
名抄ふ大和國城上之岐乃郡城下之岐乃郡也。是
あり。こは師木を上下二郡に分ちたり。師子あり
定まらぬ。例みく葛城の城を省きく葛上葛
下也書。下同ト皇極紀ふ。志紀上郡也。乃り。神名帳小。

城上郡志貴御縣坐神社あり。此社金屋村也云。小在
神武紀ふ倭國磯城邑垂仁紀。磯城嚴樞之本也。
見ゆ。後の欽明天皇の師木嶋宮也。此地あり。万葉十
九。又敷野也。あぢり。此。但此ハ。何。あ。野。あ。が。あ
一。芦城。こ。め。こ。小。見。え。く。ハ。卷。二。名。義。ハ。石。城。あ。り
は。芦。城。野。也。よ。み。て。兼。子。を。よ。め。り。名。義。ハ。石。城。あ。り
む。り。○水垣宮。凡て水垣也。云。ハ。子。初。ハ。名。義。垣。也。美
稱。也。稱。ふ。也。水。ハ。借。字。也。書。紀。小。瑞。字。を。書。也。豆
又用ふ。瑞。字。を。書。也。故。又。普。宮。號。也。廿。五。也。あ。り。必。此
官の御垣。乃水垣。あり。由の号。ハ。非。次。也。水垣の
事。師の冠。辞。考。又。委。ハ。休。了。歌。ハ。水垣の久。ハ。也。あ。り。け
よ。む。ハ。此。官。号。も。あ。り。て。の。也。昔。よ。り。心。得。來。つ。れ
也。よ。く。思。ふ。也。然。ふ。ハ。非。後。抑。如。此。也。あ。り。と。也。

卅 小隱來之長谷之川之上瀬尔鶉矣八頭漬下瀬尔鶉
丁 矣八頭漬上瀬之年魚矣令咋下瀬之鮎矣令咋麗妹尔
云々々何々も令咋まがハ皆麗也疊云むと先此序又
して全同ト考れば此哥を以心得法きなり鶉小令咋
て年魚を捕事常あり故小鶉 休て人名あり枕詞を
やハ云ぬゆり然聞えぬゆり
云は之也真髮觸奇稻田姫又境原官段ある山下影比
賣ふや此如し目微ハ米久波斯也訓法し目の状乃殊
小美麗しありしを称すは名なき法し枕詞よりあり
は年魚群也云々其群を令咋也ゆき休なり群を目
よ云ゆきゆり例万葉多し此名を初よは麻具波斯
を訓て麻ハ真ありむ 微ハ右乃万葉の麗妹の麗也同
を思ひはるるし

ト此字の意あり宇流波志ハ宇良久波志の切玉ゆり
微妙又精微あり云微 言ふて同意あり休て微字を書はハ
あり又細字をル書玉 書紀此卷小倭迹速神淺茅原目
妙姫也云ルゆり ○豊木入日子命木ハ城の意あり法
入の事ハ上 傳北二の 小云玉書紀又豊城命也ルあり
玉 ○豊鉏入日賣命鉏ハ磯城ありる也上卷阿遲鉏高
日子根神の下 傳十一の 又日子鉏友命也申次御名の
下 傳北一 小云依が如し考合せて曉ふ法しとれハ御
兄の御名也同ト云ゆり 凡て同母兄妹ハ同ト書紀
云又妃紀伊國荒河戸畔女遠津年魚眼眼妙媛海宿祢
天女 坂振 生豊城入彦命豊鉏入姫命 ○尾張連ハ上 傳
天某 辺

一乃二 小出り。○意富阿麻比賣和名抄小尾張國海
部郡海部郷あり。此は依也依名あり。陰は舊事紀五小
饒速日命六世孫建宇那比命城嶋連祖草名草姫生二
男一女。七世孫建諸隅命妹大海姫命亦名葛城高名
姫命。此命磯城瑞籬宮御宇天皇立為皇妃誕生一男二
女。云々。此小尾張連の始祖を饒速日命也。其の祖ハ実ハ天火
明命也。如く傳十九又傳廿一尾張連の祖ハ委小辨
ふが如く傳十九又傳廿一尾張連の祖ハ委小辨
こままきくはて分明しめし。此れ也。次弟の
例を以てよく考ふ。天火明命の御子天香山命其子
天村雲命其子天忍人命其子天戸目命其子建斗米命
其子建宇那比命其子建諸隅命大海姫命なり。此は名
尊姫云々。小為妻の二字。此は女を小某氏の祖也。云
脱るり。餘の例み不然あり。

る例多し。上の傳光一云り。○大入杵命倭建命段よ。
柴野入杵也云人名も見えり。杵ハ君乃意あり。陰は
本字を書き候ハ城の意ハ非ふなり。此記ハ借字も
凡て假字の如くおて其物其事小ありて用字異ハ
して定まらぬ。此多し。書紀ハ此御子無し。○八
坂之入日子命八坂ハ地名。山城國變名郡ハ八坂郷
又弥榮の意。詳は陰此命の御女を八坂之入日
賣命也申せり。又書紀ハ豊城命也。此御母を一云ハ
坂振天基邊也。○沼名木之入日賣命。沼名の意詳
ふ。陰神沼河耳命。又書紀ハ安寧卷小。淳名底仲媛孝昭
卷小。淳名城津媛。又他田宮天皇大御名沼名倉云々。淨

御原宮天皇大御名天淳中原云々申せり如此名小
多くありは若くは沼矛好也此沼矛玉の謂也然
らば名ハ之小て之を那多し瓊之城あり是
日代宮段小沼名木郎女也申次皇女も坐里沼也云る
例ハ堺原宮段又怒能伊呂比賣玉垣宮段又沼帶別命
也也好も多し此書紀垂仁卷又大倭大神を祭らし
免む人を卜可も小淳名城稚姫命卜小食玉也何系
は此比賣御子也むり○十市之入日賣命和名抄小
大和國十市止保郡あり此地に依也依り十の假字ハ
止保知也是地名なり好も好も依り是地名の假
字小ハ尋常子異ありる也此まゝあり此ハ常乃

表也訓つ之ハ書紀小ハ瓊也何り書紀云次妃尾張大
海媛生八坂入彦命淳名城入姫命十市瓊入姫命○御
真津比賣命閑化天皇の御子も同御名ありて上小出
初垂仁紀初も母皇后日御間城姫大彦命之女也何
里舊事紀小ハ御間津城也乃異何也正一ありむ
師ハ妹を嫁に誤り云也云也何り何り何り何り何り
し又閑化の皇女も御間母兄を御真村入也子命也申
甘バ御真木日賣也法也又彼皇女ハ書紀小ハ無
きを思ふは此大毘古命の御女也まゝあり非
ド○伊玖米入日子伊沙知命伊玖米ハ地名詳あり
次舊事紀五小活目邑五十異挑也云名何り何り邑字
一本小ハ色也何り此ハ地名也定免がく又万
葉三長哥小活道山也何り何り八雲御抄小ハ訓也
り是ハいづく山なり八雲御抄小ハいづく山出る也

○古事記傳二十三
〇七

ふゝを宜しき又其反奇見之治道乃其所以也
予等訓て六言の句ふありて調いり思ふ人あ
体陰きれ此句ハ三ノイハカヲ訓はきなり見
しをみし、云ハ古言の格あり六卷ハ活道固也
山城國なり記中又書紀ふル伊久米天皇の
伊沙ハ勇あり黒田宮段比古伊佐勢理毘古命の
下傳九一の考合次流し知ハ例乃尊称なり又知の意
志北宮段伊佐比宿祢の下傳書紀景行卷ノ皇子五十
州一の十ハあり考あり書紀景行卷ノ皇子五十
狭城入彦命神功卷吉師祖五十狭茅宿祢又海上五十
狭茅あり云あり○註の致字諸本みふ久作是也
本文ハ異なり法きふ非也バ今改之○伊邪能真若
命伊邪の意未思得次伊佐一なるを佐を濁して然
云ふや也思ひよれ然

聞え應神天皇の御子也此同御名あり又神功段ノ
伊奢沙和氣大神又履中天皇の大御名大江之伊邪本
和氣命あり又書紀神代卷ノ去来之真名并又伊邪河
ふ也伊邪云言の例なり伊て書紀ふハ此御子ふ
して彦五十狭茅命也云あり應神の御子も同御名な
り然也然也彦五十狭茅命也此ハ書紀の方然也
御兄乃大御名也同トきれハ此ハ又○國片比賣
命片字舊印本又一本ハ介作ふハ誤カ片ハ堅固の
義ありむり伊邪考ふ流し○千々都久和比賣命千々
は拷幡千々姫命の千々小同ト傳十五の黒田宮段小
千々速真若比賣也云あり都久の意未思得次例ハ

玉垣宮、段小石衝別王、石衝毘賣命あり。此御
名ハ書紀等合せて思ふ小化々千々都久此二字倭比
賣命也。何れ切々む。倭字を名也。和子誤る多々。茂國
の倭を後子和字小改名とせ。故に古書倭字を和子写
誤多し。又後人さうしらす註を和字の下小移して二
字を小三小改名とせ。あまは。都久和字云てり。和比
死御名。故和を夜麻登訓つ。御弟の御名倭日子也。申
次例を思ふ。伊賀比賣命和名抄小伊賀國伊
賀郡あり。此小依是依り。伊是也。何の由あて。彼國の名
を負給ひ也。詳あり。比。但ハ坂、彦命の御女也。此
美濃國小坐也。景行紀

小見え。此比賣命也。由あり。彼國小坐也。伊賀國風土記小。倭田彦神女吾娥
津媛命云々。此神之依知守國謂吾娥之郡云々。後改伊
賀吾娥之音轉也。云云。伊賀郡小阿我郷あり。今思
ふ。若くは此吾娥津媛を倭田彦神女也。語傳あり。不
依ハ誤り。此ハ伊賀日女命の降住坐也。云云。不
國延長風土記ハ。伊賀國者往昔属伊勢國大日本根
子彦太瓊天皇御宇癸酉分而為伊賀國本此。書紀ハ
号者伊賀津姫之所領之郡也。云々。何れ。書紀ハ
此皇女無。其子切々て云。伊賀比賣命。次云。此
次。○倭日子命御名義之也。伊賀比賣命。神名式ハ。河
若倭彦命神社。若倭姫命神社あり。書紀ハ。元年二月
是ハ何の由乃神名小知ら。倭。書紀ハ。元年二月
孝交朔丙寅立御間城姫為皇后。先是后生活目入彦五
十狹茅天皇彦五十狹茅命國方姫命千々衝倭姫命。倭

彦命五十日鶴彦命也。あり。○男王七女王五也。此教合
 次上子奉ふ。ハ。男王六柱。女王六柱あり。故思ふ。書
 紀ハ。伊賀日賣命無くして。五十日鶴彦命也。申次所
 是。伊賀比賣ハ。伊賀日子を誤也。依りや。あり。此ハ
 後。小字。誤也。ハ。初。阿礼。分。誦。ハ。依。時。あり。
 誤也。正。ハ。誦。ハ。安。万。臣。ハ。皆。阿。礼。分。誦。ま。ハ。誤。
 記。ハ。正。ハ。誦。ハ。安。万。臣。ハ。皆。阿。礼。分。誦。ま。ハ。誤。
 小。元。テ。此。段。乃。書。ま。ハ。此。古。を。バ。日。子。之。の。御。書。テ。此。古。
 書。依。ハ。無。ハ。然。此。記。ハ。依。ハ。依。ハ。依。ハ。依。ハ。依。ハ。依。
 二。字。あ。お。ろ。ハ。写。ハ。誤。ハ。依。ハ。依。ハ。依。ハ。依。ハ。依。
 ハ。字。形。バ。あり。ハ。異。ハ。異。ハ。異。ハ。異。ハ。異。ハ。異。

故伊父米伊理昆古伊佐知命

者治天下也次豐木入日子命

者上毛野君等之祖也妹豐鉏比賣

命拜祭伊勢大次大入杵命者

能登臣次倭日子命始而於陵

○古事記傳二十三

○十

立人 垣ヒトガキヲ

故伊久米云々書紀子四十八年春正月己卯朔戊子天
皇勅豊城命活目尊曰汝等二子慈愛共齊不知曷為嗣
各宜夢朕以夢占之二皇子於是被命淨沐而祈寐各得
夢也會明兄豊城命以夢辞奏于天皇曰自登御諸山向
東而八迴弄槍八迴擊刀弟活目尊以夢辞奏言自登御
諸山之嶺繩組四方逐食粟雀則天皇相夢謂二子曰兄
則一庁向東當治東國弟是悉臨四方宜繼朕位四月戊
申朔丙寅立活目尊為皇太子以豊城命令治東是上毛

野君下毛野君之始祖也カミツケ○上毛野カミツケノ和名抄子
上野カミツケノ加三豆國カミツケノ是ありハ毛字を省きて上野書
齊明紀カミツケノハ上毛野國あり又後世野を畧きてカミツケノ
音便カミツケノ乃云ハ詠あり又其をカミツケノ云ハ美を
濁ふカミツケノ乃云ハ音便のウツカミツケノ多
國歌カミツケノ可美都氣努又可美都氣野カミツケノあり又カミツケノ
乃也カミツケノあり乃字ハ奴の誤あり和名抄ありカミツケノ
ろ小カミツケノ乃野を省きてカミツケノカミツケノカミツケノカミツケノ
乃又野を省きてカミツケノカミツケノカミツケノカミツケノ
辞の乃も非也カミツケノカミツケノカミツケノカミツケノ
首の乃も非也カミツケノカミツケノカミツケノカミツケノ
かて餘ハカミツケノカミツケノカミツケノカミツケノ
を云々木を氣云々カミツケノカミツケノカミツケノカミツケノ
い山カミツケノカミツケノカミツケノカミツケノ
カミツケノカミツケノカミツケノカミツケノ

あつた。故今補子つ。此氏ハ書紀垂仁卷ハ上野
君遠祖ハ細田の功乃事見えてこれヲ美テ倭日向武
日向彦八細田也云名ヲ賜フ跡之也。此ハ景行卷
ハ五十五年春二月以彦狹嶋王拜東山道十五國都督
是豊城命之孫也。然到春日穴咋邑臥病而薨之。是時東
國百姓悲其王不至竊盜王尸葬於上野國五十六年秋
八月詔御諸別王曰汝父彦狹嶋王不得向任所而早薨
故汝專領東國是以御諸別王兼天皇命且欲成父業則
行治之早得善政時蝦夷騷動即率兵而擊焉云々。是以
東方無事焉。由是其子孫於今在東國也。見えてふり。
嶋王

ハ垂仁紀ハ不見え。ハ細田の子ハヤ何。ハ姓氏録
ハ細多命ハ豊城入彦命の男也。處々ハ見えて。垂仁
紀ハ上野君遠祖ハ細田也。何れハ形。但此人若彦狹
嶋王の父也。ハ書紀ハ王也。依彦。然らぬ。ハ
ハ國造本紀ハ上毛野國造瑞籬朝皇子豊城入彦命
孫彦狹嶋命初治平東方十二國為封。此氏ハ應
神紀ハ荒田別巫別仁德紀ハ竹葉瀬田道安閑紀ハ小
熊舒明紀ハ形名天智紀ハ稚子天武紀ハ三千五百見
えて。十三年十一月上毛野君賜姓曰朝臣。姓氏録ハ左
皇別上毛野朝臣下毛野朝臣同祖。豊城入彦五世孫多奇
波世君之後也云々。此ハ雄略天皇の御世百尊
馬を換ふ事ヲ奉ふ。ハ雄略紀九年河内國言飛鳥
戸郡人田辺史伯孫云々の事也。此ハ上毛野君氏

小関也。此事ハ非ふを。此ハ出せ居ハ。ひがく。此ハ豊城入彦命乃御末の内也。田辺史云氏ある故。小其マ。まき。れ。れ。を。此。孫。ハ。右京諸蕃田辺史漢王之後。知。松。之後也。何。氏。ハ。右京。也。漢人乃子孫。あ。色。バ。了。そ。百尊。徳。尊。あ。云。名。ハ。あ。る。あ。れ。て。又。あ。此。豊城命の御末。あ。田辺史の史。ハ。あ。ぬ。あ。ふ。ふ。く。あ。ハ。上野氏の祖。乃。う。ち。韓。國。ハ。渡。り。て。由。縁。何。り。事。ハ。彼。此。見。え。れ。バ。然。体。由。より。出。せ。居。る。あ。り。て。彼。漢。王。の。後。乃。田辺氏。ハ。此。田辺氏。ま。右京上。野。由。縁。あり。事。何。り。其。ハ。知。ら。れ。ず。皇。別。上。

毛野朝臣崇神天皇皇子豊城入彦命之後也。續紀十八
小賜田辺史難波等上毛野公姓卅四。田辺史廣本等
五十四人賜姓上毛野公。姓氏録云田辺史豊城入彦命四世孫大荒田別命之後也。
三代実録七。上毛野公藤野上毛野公赤子等同族男
七女人賜姓朝臣豊城入彦命之苗裔也。又續紀十九。

陸奥國の吉弥候部氏の人々。上毛野陸奥公。上毛野名取朝臣。上毛野鋏山公。上毛野中村公。云。姓を賜ひ。見。え。る。此。等。ハ。豊城命乃御末。乃。そ。何。り。也。姓。氏。録。云。吉弥候部。上毛野朝臣。同祖。豊城入彦命。六世孫。奈良君。之後也。續紀十九。勅。自。今。以後。改。君。子。部。為。吉。美。候。部。見。ゆ。續。後。紀。四。小賜左京人。上毛野公。諸兄朝臣。姓九。小陸奥國瑯磨郡大領丈部人。麻呂戸一烟賜姓。上毛野陸奥公。下毛野君。和名抄云。下野介。乃。豆。國。也。何。不。是。あ。り。万葉十四。下野國歌。小之母。都家野。ま。志。母。都家。努。あ。り。何。り。中昔。より。野。を。省。ま。り。志。國。造。本。紀。云。下。毛野國造。難波高津朝御世。元毛野國分。為。上。下。豊城命。

四世孫奈良別初賜國造初下小定字脫別姓錄奈良君天武紀又十三年十一月下毛野君賜姓曰朝臣姓氏錄皇別下毛野朝臣崇神天皇皇子豐城入彥命之後也續紀廿九陸奧國信夫郡人吉弥候部念丸等七人又下毛野俯見公云姓在賜ハ見也靜屈ハ靜戸公在誤也郷あり安達信夫廿七小吉弥候横刀吉弥候夜須麻呂並賜姓下毛野朝臣吉弥候間人同姓總麻呂並賜下毛野公續後紀三近江國人志賀忌寸田舍麻呂等四人賜姓下毛野朝臣五十瓊殖天皇皇子豐城入彥命之

苗裔也九陸奧國人大部繼成等卅六人賜姓下毛野陸奧公多所ハ○豐木入日子命ハ御子孫ハ上件乃外ハ姓氏錄ハ池田朝臣上毛野朝臣同祖豐城入彥命十世孫佐太公之後十世一本小十住吉朝臣上毛野同祖豐城入彥命五世孫多奇波世君之後也池原朝臣住吉同氏上毛野坂本朝臣上毛野同祖豐城入彥命十世孫佐太公之後也車持公上毛野朝臣同祖豐城入彥命六世孫射狹君之後也云云大綱公上毛野朝臣同祖豐城入彥命六世孫下毛君奈良弟真若君之後也毛下字落ハ桑原臣上毛野同祖云云川合上毛野同祖云云

垂水史、上毛野同氏、豐城入彦命、男、彦狹嶋命、之後、彦狹嶋命
を、豐城命の男也、高長首、上毛野同氏、佐味朝臣、上毛野
朝臣同祖云云、大野朝臣同豐城入彦命、四世孫、大荒田
別命、之後也、垂水公、豐城入彦命、四世孫、賀表真若命、之
後也、云云、佐自努公、豐城入彦命、孫、大荒田別命、之後也、
下養公、上毛野朝臣同祖云云、廣來津公、下養公同祖云
云、韓矢田部造、上毛野朝臣同祖、豐城入彦命、之後也、三
世孫、弥母里別命、孫、現古君云云、車持公、同豐城入彦命、
之後也、廣來津公、上毛野朝臣同祖、豐城入彦命、之後、三
世孫、赤麻里云云、止美連、尋來津公同祖云云、村拳首、豐

城入彦命、之後也、佐代公、上毛野朝臣同祖云云、珍縣主、
佐代公同祖云云、登美首、佐代公同祖、豐城入彦命、男、倭
日向建日向八綱田命、之後也、葛原部、佐代公同祖云云、
淡木造、豐城入彦命、之後也、丹比部、同上、輕部、倭日向建
日向八綱多命、之後也、云々、我孫、豐城入彦命、男、八綱多
命、之後也、佐自努公、豐城入彦命、之後、伊氣、豐城入彦命、
四世孫、荒田別命、之後也、我孫、公、豐城入彦命、男、倭日向
建日向八綱田命、之後也、見元續紀、四十、池原公、綱
主等言、池原上毛野二氏之先、出自豐城入彦命、其入彦
命、子孫、東國六腹朝臣、各因居地、賜姓命氏、斯乃古今所

狹桃花鳥坂於是集近習者悉生而埋立於陵域數日不
死晝夜泣吟遂死而爛臭之犬鳥聚噉焉天皇聞此泣吟
之聲心有悲傷詔群卿曰夫以生所愛令殉亡者是甚傷
矣其雖古風之非良何從自今以後議之止殉也何是
小人垣也乃其志也乎人垣也書紀云漢文を修
此小人垣也乃其志也乎人垣也書紀云漢文を修
或人向書紀云殉ハ古風也其表裏あり然也ハ延佳本の止
立人垣也乃其志也乎人垣也書紀云漢文を修
字あり其宜しう不修き此事ハあむ答延佳書紀を惡
く見誤也其故ハ生人を殉埋むふハいハ古よりの
乃風あり其故ハ生人を殉埋むふハいハ古よりの
まど例あり其故ハ生人を殉埋むふハいハ古よりの
始なり人垣を立ふふ至るなり次より引る續紀の文

故あり書紀の趣也前々の例あり其故ハ生人を殉埋むふハいハ古よりの
紀の趣也前々の例あり其故ハ生人を殉埋むふハいハ古よりの
命なり其故ハ生人を殉埋むふハいハ古よりの
止なり其故ハ生人を殉埋むふハいハ古よりの
の薨坐し何天皇詔群卿曰從死之道前知不可今此行
之葬奈之何於是野見宿禰進曰云々其土物始立於日
葉酢姫命之墓仍下今曰自今以後陵墓必樹是土物無
傷人焉等言云々昔纏向珠城宮御宇天皇世云云每
有凶事例多殉埋于時皇后薨帝顧問群臣曰後宮葬禮
為之奈何群臣對曰一遵倭彦王子故事時臣等遠祖野
見宿禰進奏曰如臣愚意殉埋之禮殊乖仁政益國利人
之道云々以代殉人云々既止此論あり若比婆須比
賣命の時小のいりてり故事を止む故事也若野見宿禰の
子故事を止む故事也若野見宿禰の

土物の功ハ何處より何れおぼく考す也此書
延佳本乃止字の誤ありを考す也此書
紀の文小依ふ事知ハ此人垣を立ハ石構の内ハ
何れで陵域ありヤ遠く行テ立周ラシムる事
又深く小埋ま深ハ地上小近き處見たり
聚噉あり也依テ以御墓ハ大和志高市郡部小在所未詳
或曰在野口村云々其墓窟中方丈餘以大石五片磨礫
精巧而今半毀石棺石蓋棄置路傍俗呼鬼厨鬼肉几
云里今思ふ小此ハ身狭桃花鳥坂あり小地違了
いはゆ依鬼厨鬼魚板在所ハ野口村小ハ近ハ
も野口村小ハ身狭桃花鳥坂あり小ハ近ハ
厨鬼魚板此玉の御墓ハ石を依小據ふ事
里古の陵墓ハ何れ也考す小皆太五を用ハるハ今是

を何乃墓の石也ハ定免ガム荒木田久老云野口村
乃何れ鬼厨也云大石の在所あり少ハ東方小玉
墓少云あり里人ハ武烈天皇の御陵あり云テ此天
皇御所行の也思く坐ハ小ありて生好ハ此ハ埋奉
せり也云傳了もハ倭彦命乃陵小近習者を生
ら埋免ハ事傳了もハ倭彦命乃陵小近習者を生
彦命の御墓ハ此玉墓少云冢あり法ハ若然ハ倭
由あり考了也ハ地違了也取ガ

此天皇之御世役病多起人民

死爲盡爾天皇愁歎而坐神牀

之夜大物主大神顯於御夢曰

是者我之御心。故以意富多多。
泥古而令祭我御前者。神氣不
起國安平。是以驛使班于四方。
求謂意富多多。泥古人之時。於
河内之美努村。見得其人。貢進。

爾天皇問賜之汝者誰子也。答
曰。僕者大物主大神。娶陶津耳
命之女。活玉依毘賣。生子名櫛
御方命之子。飯肩巢見命之子。
建甕槌命之子。僕意富多多。泥

コト一ラレキコ、ニ
古白。於是天皇大歡以。詔之天

下平人民榮。即以意富多多泥

古命。為神主而。於御諸山。拜祭

意富美和之大神前。又仰伊迦

賀色許男命。作天之八十毘羅

訶。此三字
定奉天神地祇之社。

又於宇陀墨坂神。祭赤色楯矛。

又於大坂神。祭黑色楯矛。又於

坂之御尾神。及河瀬神。悉無遺

忘。以奉幣帛也。因此而役氣悉

河り其、幽事ハ、何乃故誰ガ所為レ云々ノ顯カ知
られ、依を云、疫病乃類ふル此、幽事ハ何の故誰
ガ所為レ知らぬを、神の御教を祈ヒて、此を知ル
あり、書紀神代卷ハ、天、兒屋、命、主、神事之、宗源者也、故
此ハ、神事ヲ、何依ハ即、幽事ハ其、宗源ヲ主
誰ガ志ス、幽事ハ以テ、神の教を乞ヒて、其、幽事ハ何のゆゑ
業依を認ルあり、よく、文義を味ム、かくて、今其、
幽事ハの、大物主、大神乃御所為ル、其、御名の顯カるナ
事、幽事ハ顯カるナを相照シて、此、幽事ハを、幽事ハ是者ハ
疫病の如此起ル依ハあり、○我之御心、玉垣宮、段ハ、布
斗摩迹々、台相而、求、何神之心、爾崇、出雲、大神之御心、訶

志此、宮、段ハ、天照大神之御心者、書紀景行、卷ハ、今風起、
浪、泌王、船欲、没、是、必、海神心也、神功、卷ハ、時、軍卒、難、集、皇
后曰、必、神心焉、則、立、大三輪、社、以、奉、刀矛、矣、軍衆、自、聚、允
恭、卷ハ、獵、于、淡路、嶋、云々、終、日、以、不、獲、一、獸、於、是、獵、止、以
更、卜、矣、嶋、神、崇、之、曰、不、得、獸、者、是、我、之、心、也、亦、石、海、底、有、
真珠、其、珠、祠、於、我、則、悉、當、得、獸、云々、類、聚、國、史、ハ、天、長、四
年、正、月、詔、曰、天、皇、詔、旨、止、稻、荷、神、前、尔、申、給、南、止、申、佐、久
頃、向、御、躰、不、愈、大、坐、須、尔、依、豆、占、求、苗、尔、稻、荷、神、社、乃、樹
伐、札、苗、罪、崇、尔、出、止、申、須、云々、実、尔、神、乃、御、心、尔、志、坐、波
云々、土、左、日、記、ハ、ち、は、や、ふ、依、神、の、心、乃、荒、島、ハ、海、ハ、云
云、目、ル、る、如、く、鏡、ハ、神、の、心、を、く、く、見、如、此

平矣。天皇向曰：教如此者，誰神也？答曰：我是倭國域內所
居神，名為大物主神。時得神語，隨教祭祀，然猶於事無驗。
天皇乃沐浴齋戒，潔淨殿內而祈之，曰：朕札神，尚未盡耶。
何不享之，甚也。冀亦夢裏教之，以畢神恩。是夜夢有一貴
人對立殿戶，自称大物主神，曰：天皇勿復為愁國之不治，
是吾意也。若以吾兒大田々根子，令祭吾者，則立平矣。亦
有海外之國，自當歸伏。秋八月癸卯朔己酉，倭迹速神、淺
茅原目、妙姬、穗積、臣、遠祖、大水口、宿禰、伊勢、麻績、君三人
共同夢而奏言：昨夜夢之，有一貴人，誨曰：以大田々根子，
命為祭大物主大神之主，亦以市磯、長尾、市為祭倭大國

魂神之主，必天下太平矣。會八十万神，其神靈を諸
小其現身を集り。○驛使ハ波由麻豆加比也。訓法ハ波
由麻ハ早馬あり。夜宇ハ由切係書紀ナリ。伊勢國飯
野郡小早馬瀬云村あり。万葉十四丁十七小須受我祿
其ハ今ハ波伊麻是也。呼玉乃早。十八丁二十小須受可氣
乃波由馬宇馬夜能。鈴音乃早。十八丁二十小須受可氣
奴波由麻久太札利。鈴不掛早馬。あやあり。侍て驛字ハ
む。後の定お依り書依のみあり。驛馬乃定ハ。麻牧令
此ハ必一七此字お拘らば。む。早馬乃使お。後世小
所謂早打の類なり。此祿記中お。書紀小。處々見
え。○四方ハ余母訓四面の意あり。加宜登母曾

御形神社あり。又同郡小伊和坐大名持御魂神社大此
切石邊。姓氏録石邊君小大物主命男久斯比賀多命。又石邊公小大物主命子久斯比賀多命。又石邊野大物
主命兒櫛日方命石邊。美比冬は常よく通ふ
音ふく同ト。又出雲國造神賀詞小倭大物主櫛毘玉命
登名乎称天也阿麻八。大物主神の御名也。小此よ
也よく似たり。又上卷吉備兒嶋の亦名を。建日方別
冬云。彼處傳五の。小云依る考合以法。○飯
肩巢見命。飯の伊を除き。父名乃比賀多也。同ト。伊の
意ハ未思得。次舊事紀傳五ハ。健飯賀田須命也。阿。健此ハ

里連傳五。故小飯ハ比冬よ。伊傳五の言なり。巢見の
此記も若くハ上建字の脱也。小ハ非なり。巢見の
事ハ上卷熊野久須毘命乃下傳七の五。小云。○建甕
槌命名義上卷又同名の神坐て其處傳五の。小云依
ガ如し。○僕くハ。於能礼也。訓法。○意富多。多泥古
此名ハ意富多也。よみ多々。多々。よみ。泥古。讀。舊事紀又大
直祢古也。書里多々ハ地名也。法。神名帳ハ攝津
國河邊郡多太神社あり。此杜多田莊の内平野。小阿。此
人多田也。云處中昔よ。世。此。又大和國葛上
郡ふも。多太神社あり。泥古ハ尊称小。難波根子山背
根子切也。云類あり。三代實録四又。小ハ。大三輪大田々

あり、よれ、此の武茅渚祇の別人、其事、連て一人の
名、之、せ、ゆ、小、ま、ぎ、れ、傳、ふ、武、茅、渚、祇、の、陶、津、耳、
の、白、搏、原、朝、の、大、后、伊、須、氣、余、理、比、賣、命、乃、御、父、母、
の、混、ま、り、神、君、の、下、小、引、座、一、次、の、舊、事、紀、の、九、て、信、み
お、出、る、書、あ、を、四、之、巻、大、神、朝、臣、の、世、次、を、記、せ、
段、此、意、富、多、々、混、古、の、祖、先、乃、世、々、切、の、據、の、所、り、
お、見、ゆ、ゆ、今、論、は、私、の、休、ま、ら、事、代、主、神、化、為、八、尋、鯉、
通、三、嶋、溝、杭、女、活、玉、依、姫、生、一、男、一、女、兒、天、日、方、奇、日、方、
命、妹、姫、踏、鞆、五、十、鈴、姫、命、云、ふ、大、神、朝、臣、乃、祖、を、依、
混、了、遂、三、嶋、溝、杭、乃、女、の、名、を、活、玉、依、姫、朝、臣、乃、祖、を、
方、奇、日、方、命、云、ふ、五、十、鈴、姫、命、を、同、母、の、兄、妹、也、
ひ、が、之、即、甘、茂、君、等、大、三、輪、君、等、又、姫、踏、鞆、五、十、鈴、姫、命、
之、子、乃、甘、茂、君、等、大、三、輪、君、等、又、姫、踏、鞆、五、十、鈴、姫、命、
謂、く、抑、三、嶋、溝、杭、耳、の、女、子、娶、坐、ふ、陶、津、耳、乃、女、活、玉、依、

媛、坐、ふ、共、大、物、主、神、の、似、也、此、相、似、也、
あ、て、別、を、事、の、休、ま、此、相、似、也、
は、一、混、ま、り、事、の、休、ま、此、相、似、也、
父、大、物、主、神、乃、事、代、主、神、
三、輪、君、乃、大、物、主、神、乃、子、孫、也、
の、子、孫、云、ふ、乃、古、書、見、ゆ、
記、九、て、彼、紀、の、休、ま、
せ、び、誤、り、大、神、を、胸、形、君、乃、以、拜、
引、て、胸、形、大、神、を、胸、形、君、乃、以、拜、
大、神、を、以、拜、
け、免、阿、田、都、久、志、居、命、此、命、娶、日、向、賀、牟、度、美、良、姫、生、
亦、名、阿、田、都、久、志、居、命、此、命、娶、日、向、賀、牟、度、美、良、姫、生、
男、一、女、兒、健、飯、勝、命、妹、渚、名、底、姫、命、云、ふ、
素、美、鳥、命、より、記、せ、故、あり、
ゆ、り、姓、氏、録、め、大、物、主、神、の、御、子、
御、子、也、世、依、非、也、
渚、名、底、姫、命、を、奇、日、方、命、乃、女、子、
命、の、書、紀、の、事、代、主、神、の、孫、也、

健飯勝命此命娶出雲臣女子沙麻奈姬生一男云云
此記の飯肩巢見命の所を名の子乃
建麿植次命伊勢幡主女賀具呂姫為妻生一男云云
五代孫此命伊勢幡主女賀具呂姫為妻生一男云云
次此命伊勢幡主女賀具呂姫為妻生一男云云
麿依命此命紀伊名草姫為妻生一男云云
命此命大倭國民磯姫為妻生二男八世孫阿田賀田須
命知途古等祖次健飯賀田須命此命鴨部美良姫為妻
生一男九世孫大田根古命亦名大直根古命云云
大田田根古の父乃名此記乃飯肩巢見といやよく似
ふり又田田直の異ふ所のみあらず全同きを
亦名やて奉る所のいあはし九世孫云ふは大物
主神乃八世孫あはは此記乃四世乃達あり此の
まきれぬ一を三世なり四世なり世はひ
豊御氣主亦名健麿依云ふは豊御氣主建麿植の
亦名ふ大御氣主も同人の亦名又健飯賀田須ハ
健飯勝也同人あはは此田須ハ都切まは全同名
ひるをやあはは此世次ハ書紀ハ姓氏録ハ舊事紀

をみあ正此記を正しありける ○即以意富多々泥古
しあり此記を正しありける ○即以意富多々泥古
命ここの此名の上小此言を讀添法し語乃休ま
必然里休て此又初命云ハ上あはは或ハ祖神の
詔ひ或ハ自云依言ひる故命云云依を此は記乃
地より云故あり ○神主ハ神小奉仕主人なる人を
云称あり 齋主祭主あや云書紀ハ即以大田田根子為
祭大物主大神之主也あり又神功卷ハ皇后選吉日入
齋官親為神主云々也依を以て 古神事を重み賜
凡そ神主の職乃重きなりを知法ハ万葉十三五
串立神酒座奉神主部之雲聚山蔭見者之文續紀十七

み大神神主、從六位上大神朝臣伊可保、授從五位下。○
御諸山上卷傳十二のみ出。○意富美和之大神前オホカミノミテ之れ
即大和國城上郡大神神社あり。既み傳十二又尤み出
るり、作て此御社ハ、此御世み今始免て建タテまふ所如
くハ、聞ゆ免れ、然シハ、非レ。既ニ白檮原宮御段みル
美和之大物主神見え、下文み至美和山而留神社ニ
あり。往昔の事あり、或ハ、ハ無ク。此御社今世みハ、御殿
拜奉ふハ、即書紀、此御代の八年乃大神歌み、ハ能
等能令阿佐姫、珥毛於辭、蘇羅箇、稱、源和能等、能渡鳥、
よみ、ふみ、ひ、開、神宮門、而云々、み、見、又日本紀、畧
小長保二年七月十三日、奉幣、九一社、依大神社、寶殿、鳴
也、有辭、別、見、在、童蒙抄、み、三輪、明神の社、み、參、已、て、此

女小逢、彦、由、を、折、申、は、不、や、り、其、社、乃、御
戸、城、お、し、開、き、見、え、給、ふ、む、り、見、あ、り、
都伎麻都理賜伎、了、訓、彦、し、書紀、み、八年夏四月庚子朔
乙卯、以、高橋、邑、人、活、日、為、大神之掌酒、冬十二月丙申朔
乙卯、天皇、以大田根子、令、祭、大神、大神ハ、大美和、大神
稱、古、乎、無、止、女、佐、理、世、波、由、女、見、志、於、保、毛、乃、奴、之、乃、
可、美、安、礼、奈、末、之、姓、氏、錄、み、神、宮、部、造、葛、城、猪、石、固、天、下、
神、天、破、命、之、後、也、六、世、孫、吉、足、日、命、磯、城、瑞、籬、宮、御、宇、崇、
災、異、即、止、天、皇、詔、曰、消、天、下、災、百、姓、得、福、自、今、以、後、可、為、
宮、能、賣、神、仍、賜、姓、宮、能、賣、公、然、後、庚、午、年、籍、註、神、宮、部、造、
也、や、あ、ふ、し、意、富、多、々、泥、古、命、み、副、○伊、迦、賀、色、許、男、命、
て、祭、り、し、人、ふ、や、み、け、む、
名、義、ハ、上、伊、賀、迦、色、許、賣、命、の、下、
し、作、て、此、人、ハ、物、部、連、乃、祖、み、く、姓、氏、錄、穗、積、朝、臣、條、み、

石上同祖神饒速日命五世孫伊香色雄命之後也見
又佐為連真神田曾祢連巫部宿祢水取連宇治宿祢
宇治山守連長谷山直若湯坐宿祢矢田部首物部飛鳥
津首采女臣物部等氏々條ふりみな饒速日命六世孫
伊香我色雄命あり季來津首條ふり三世孫あり
伊香我色雄命あり此ル一本六世孫あり
伊香我色雄命あり物部連乃世系を考ふり饒速
日命の子宇摩志麻治命其子彥湯支命其子出石心大
臣命其子大矢口宿祢命其子大綜杵命其子伊香我色
雄命伊香色雄命ありあり此人天皇乃御舅也
そ坐けふ仰ぐは下に無遺忘以奉幣也

の事等總て小係也五十八十毘羅訶を作事の此間乃
云々の事皆此命乃奉りて供神物を掌り造備了執
すうふひ給ふなり書紀云乃ト使物部連祖伊香色雄
為神班物者吉之又ト便祭他神不吉十一月丁卯朔己
卯命伊香色雄而以物部八十手所作祭神之物即以大
田田根子為祭大物主大神之主又以長尾市為祭倭大
國魂神之主然後ト祭他神吉焉此書紀の文乃趣い
意を失ひたり故今初解むるは伊香色雄命
物主大神及倭大國御魂神等の二柱に對りて其餘の
諸の天社國社乃神を掌りて伊香色雄命
小仰せし供神物を掌りて伊香色雄命
伊香色雄命先彼二柱神を第一に祭り賜ふは

神地祇ヲ義解ノ謂即位之後仲義解ハ謂天神者伊勢山城鴨住吉出雲國造齋神等類是也地祇者大神大倭葛木鴨出雲大汝神等類是也出雲國造齋神ハ出雲熊野云云須佐之男命ハ天神也又天杵築大社云天神也天ハ坐シ凡神又天ノ降リ坐シ神を申シ地祇ハ此國土ニ坐シ神を申シ形ヲ令レ集解ハ疏曰自リ天而下リ坐シ曰レ神也就地而頭ス○定奉奉ハ祭ノ意アリ此ハ本ヨリ其社ハ有ルあがら假スあがらル或ハ荒ビゞセあがらセ新クて善ク修理成ス定ルを立テ祭ヲ賜フ形ヲ法シ定ルハ祭ノ式ノ形ヲ非シ祭ハ法キ社々ヲ定ル賜フ形ヲあがらセむハ後世神也

祇官乃帳ヲ載テ祭ノ社ヲ定ル也書紀云ハ便別祭ハ十萬群神仍定ニ天社國社及神地神戶別大神ハ先ツ大物主魂神ノ祀ヲ定ル矣然後○宇陀墨坂神宇陀ハ上ノ傳ハ又別ル也云々形○一葉ハ見ル也墨坂ハ書紀神武卷ハ又於ニ女坂置キ女軍男坂置キ男軍墨坂置キ熾炭其女坂男坂墨坂之号由此而起也云々名ハハ熾炭ヲ置キ形ヲ出ル也云々事也云々白檮原宮改傳ハ十九ノ五ノ葉ハ書紀ヲ引テ委言皇天武紀ハ將軍吹負為近江所敗以獨率一二騎走之速于墨坂○古事記傳二十三○三十八○時ニ於ニ鬼田墨坂忽聞ニ嬰兒啼泣墨字ヲ印本ハハ誤也云々萬葉四

小君家尔吾住坂乃家道乎毛吾者不忘命不死者キミガハニニミカサノ見ゆキミガハニニミカサノ此坂ハ宇陀郡の何處ハニニミカサノはありハニニミカサノ在ハニニミカサノ云ハニニミカサノ云ハニニミカサノ或説アルトキコト小萩原驛ハイハラの西ハニニミカサノありハニニミカサノ云ハニニミカサノ右乃古書ハニニミカサノ云ハニニミカサノ此趣ハニニミカサノ常ハニニミカサノ人の往來ハニニミカサノせし大道ハニニミカサノを圍ハニニミカサノゆれハニニミカサノばハニニミカサノまハニニミカサノまハニニミカサノゆハニニミカサノれハニニミカサノるハニニミカサノあハニニミカサノ

或ハ詳カクありハニニミカサノぬハニニミカサノむハニニミカサノらハニニミカサノハハニニミカサノ乱世ハニニミカサノを經ハニニミカサノてハニニミカサノ後ハニニミカサノのハニニミカサノ述ハニニミカサノ世ハニニミカサノ乃ハニニミカサノろハニニミカサノろハニニミカサノありハニニミカサノ

宇陀都祁葛木登御名者白互云々オラハ並言ナラハ子冬コノ此小大
坂神大坂山、口、也並言テ祭賜ふを思ふ陰イハレ一三代実
録子負觀元年九月風雨乃御祈小遣使奉幣四十五社
乃中多くハ山口神也水分神也小其中小大坂山
口神宇陀水分神小入右の趣也小をよく考はふ
墨坂神也申次ハ宇陀水分神社也小ウツチ
書紀釋小墨坂神兼方按大和國宇陀郡八咫書紀難答
鳥神社若此神社欽也由ふ一書紀難答
卷小七年云々天皇詔少子部連螺羸曰朕欲見三諸岳
神之形云々或云菟田墨坂神也。○大坂神大坂の事ハ
玉垣宮段傳廿五の小云陰一神ハ神名帳ハ大和國葛

下郡大坂山口神社大月次新嘗三代實録子負也
是あり今穴アケムシ蒸村也云小あり俗小ハ牛頭天王云々此
川郡小越赤アカ色イロ黒クロ色イロ楯タテ矛ホコ黒黒字諸本墨也作家ハ誤
山道也赤赤黒黒乃乃色ハ何の故也小う知られハ書紀小
依依此此小神乃御誨ミ也也ハ深き故也也小
墨坂ハ東方小在故小陽色の赤大坂ハ西方小在故
小陰色の黒小ありハ例の漢意也一ハ故
小古意ハ非合也小あり由一ハ故
小奉皇賜ふ事ハ書紀垂仁卷小二十七年秋八月癸酉
朔己卯令祠官卜兵器為神幣吉之故弓矢及横刀納諸
神之社仍更定神地神戸以時祠之蓋兵器祭神祇始興

於是時也。此共器祭神祇始興於此時也。其水垣朝御世也。此指予の事以故也。既也。神功卷云々皇后曰必神心焉。則立大三輪社以奉刀。予矣。予見也。後々まで恒乃々々。三代実録十。小石清水八幡宮。指予并御鞍を奉賜ふ告文云。新宮。構造天岐指予及種々神財可奉出而神財波且奉出已。止畢太利指予并御鞍等乎奈毛。怠利介苗。此乎今造。天云々奉出給布。あやあや思ふ有。中如。楯。予を。小殊。又重。奉。賜。あや。此。水垣宮。御。代の。此。乃。例の。次第。傳ハ。里。来。ゆ。もの。あ。○。祭ハ。奉。あ。此。ル。言。あ。れ。ハ。楯。予。を。奉。て。祭。意。ハ。

了祭字ハ書傳好シ。書紀云。九年春三月甲子朔。戊寅天皇夢有神人。誨之曰。以赤盾八枚。赤矛八竿。祠墨坂神。亦以黑盾八枚。黑矛八竿。祠大坂神。四月甲午朔己酉。依夢之教。祭墨坂神。大坂神。龍田。風神。祭祝詞云。龍田。尔称。辞。竟。奉。皇。神。乃。前。尔。白。久。志。貴。嶋。尔。大。八。嶋。國。知。志。皇。御。孫。命。乃。遠。御。膳。乃。長。御。膳。止。赤。丹。乃。穗。尔。聞。食。須。五。穀。物。乎。始。互。天下。乃。公。民。乃。作。物。乎。草。乃。片。葉。尔。至。万。互。不。成。一。年。二。年。尔。不。在。歳。真。屋。久。傷。故。尔。百。能。物。知。人。等。乃。卜。事。尔。出。牟。神。乃。御。心。者。此。神。止。白。止。負。賜。支。此。乎。物。知。人。等。乃。卜。事。乎。以。互。卜。止。毋。出。留。神。乃。御。心。毋。無。

ト^{マラス}止^{キコレ}白^{スレ}止^テ聞^ス者^ミ互^マ皇^ノ御^ミ孫^{コト}命^ノ詔^{ハク}久^カ神^ミ等^タ乎^チ波^バ天^ア杜^マ國^ク杜^ツ止^マ忘^レ事^オ無^ツ久^ク遺^{コト}事^ナ無^ク久^ク称^タ辞^ハ竟^ヘ奉^ミ止^ト思^オ志^ホ行^シ波^ハ須^ス乎^ラ誰^イ神^レ曾^カ天^マ下^ア乃^シ公^コ民^ノ乃^シ作^ツ々^リ物^{モノ}乎^ヲ不^サ成^ズ傷^ソ神^カ等^ミ波^ハ我^ワ御^カ心^コ曾^ハ止^ト悟^サ奉^レ礼^レ止^ト宇^ウ氣^ケ比^ヒ賜^タ支^キ是^コ以^ハ皇^ミ御^ノ孫^ノ命^ノ大^ミ御^ノ夢^ノ尔^ニ悟^サ奉^レ久^ク天^ア下^ア乃^シ公^コ民^ノ乃^シ作^ツ々^リ物^{モノ}乎^ヲ惡^ア風^カ荒^セ水^ニ尔^ニ相^ア都^ツ々^ハ不^サ成^ズ傷^ソ波^ハ我^ワ御^カ名^ナ者^ハ天^ア乃^シ御^ノ柱^ノ乃^シ命^ノ國^ノ乃^シ御^ノ柱^ノ乃^シ命^ノ止^ト御^ノ名^ノ者^ハ悟^サ奉^レ互^マ吾^ワ前^マ尔^ニ奉^レ年^ニ幣^ニ帛^ニ者^ハ云^ハ々^ク吾^ワ宮^ノ者^ハ朝^ヒ日^ノ乃^シ日^ノ向^カ處^ニ夕^ニ日^ノ乃^シ日^ノカ^クル^ト隱^レ處^ニ乃^シ龍^ノ田^ノ能^ク立^テ野^ノ尔^ニ小^ニ野^ノ尔^ニ吾^ワ宮^ノ波^ハ定^メ奉^レ互^マ吾^ワ前^マ乎^ヲ称^ス辞^ス竟^ス奉^レ者^ハ天^ア下^ア乃^シ公^コ民^ノ乃^シ作^ツ々^リ物^{モノ}者^ハ五^ノ穀^ノ半^ニ始^メ互^マ草^ノ乃^シ片^カ葉^ハ尔^ニ至^リ万^ノ互^マ成^ル幸^ニ而^シ奉^レ年^ニ止^ト悟^サ奉^レ支^キ是^コ以^ハ皇^ミ神^ノ乃^シ辞^ス教^ス悟^サ

マ^ツル^トコ^ロニ^ミヤ^ハ柱^ノ定^メ奉^レ互^マ此^ノ乃^シ皇^ノ神^ノ能^ク前^マ尔^ニ称^ス辞^ス竟^ス奉^レ尔^ニ皇^ノ御^ノ孫^ノ命^ノ乃^シ宇^ノ豆^ノ乃^シ幣^ニ帛^ニ令^テ捧^テ持^テ互^マ王^ノ臣^ノ等^ノ乎^ヲ為^シ使^テ互^マ称^ス辞^ス竟^ス奉^レ久^ク止^ト皇^ノ神^ノ乃^シ前^マ尔^ニ白^ク賜^フ事^ヲ乎^ヲ神^ノ主^ノ祝^ス部^ノ等^ノ諸^ノ聞^ク食^ム止^ト宣^ス云^ハ々^ク此^ノ宇^ノ豆^ノ乃^シ幣^ニ帛^ニ乎^ヲ安^ク幣^ニ帛^ニ能^ク足^ル幣^ニ帛^ニ止^ト皇^ノ神^ノ能^ク御^ル心^ヲ尔^ニ平^ク久^ク聞^ク食^ム互^マ天^ノ下^ノ能^ク公^ノ民^ノ能^ク作^ル々^ク物^ノ乎^ヲ惡^ク風^ノ荒^ク水^ノ尔^ニ不^ス相^ス賜^フ皇^ノ神^ノ乃^シ成^ル幸^ニ而^シ賜^フ者^ハ云^ハ々^ク秋^ノ祭^ル尔^ニ奉^レ年^ニ止^ト云^ハ々^ク此^レ志^ハ貴^ニ鳴^ル尔^ニ云^ハ々^ク官^ノ柱^ノ定^メ奉^レ互^マ云^ハ々^ク皆^ク此^ノ水^ノ垣^ノ官^ノ乃^シ御^ル世^ノ乃^シ事^ヲ有^ル志^ハ貴^ニ嶋^ノ云^ハ々^ク欽^ム明^ク天^ノ皇^ノ乃^シ御^ル世^ノの^ノ如^クく^ニみ^テ然^ル乃^シ非^ズ汝^ノ云^ハ々^ク也^ヲを^シ此^ノ處^ニみ^テ思^フ合^ス次^ニ尔^ニみ^テ今^ノ墨^ノ坂^ノ大^ニ坂^ノの^ノ神^ノを^シ別^ニみ^テ祭^ル賜^フ尔^ニ此^ノ龍^ノ田^ノ乃^シ類^ニみ^テ年^ノ穀^ノの^ノゆ^ゑ欠^クみ^テ何^レけ^レ尔^ニ○又^ニ於^テゆ^ゑ河^ノ瀬^ノ神^ノ云^ハ々^ク十一^ノ字^ノ真^ニ

云あり上小引系龍田祭詞あり天社國社止忘事無久
遺事無久稱辭竟奉あり初又續紀十乃詔小漏落事
母在牟加止辱美云々ありあり○幣帛ハ美且具良也
訓上卷傳八の四小出あり○役氣役字一本小没一本
役を誤りたり又延佳本小ハ疫作也今ハ一
本小役あり依り其由ハ上文役病あり處
云ふが此も辺微能氣也訓法○國家ハ阿米能斯多
也訓法書紀あり多く然訓也○安平也ハ多比良岐
伎也訓法續あり下文あり天下太平人民富榮見
え書紀仁徳卷あり是以政令流行天下太平二十餘年
無事矣ありあり皆同ト休まあり書紀云く於是疫

病始息國內漸謐五穀既成百姓饒之○或問者くくハ
大物主大神ハ八百萬神を帥て皇御孫命を守護奉坐
神あり小此御世天皇乃悪く休御政も聞えたり小此
段の如崇ふまひる天下を騷がし人民を惱まし賜ふ
ハ心得此義如何答んて神の御心御所為ハ彼外國
乃佛聖人あり云らむ者乃如く尋常の理を以て此方
よめありあり小定免て論ふ法き物ハ非此善小悪
も九て測る難
きとやぞかし

此謂意富多多。泥古人所以知
コノオホタ、ネコトイフヒトヲカミノミコト
シレルユエハカミニイヘルイクタマヨリヒメソレ
神子者。上所云活玉。依毘賣。其
カホヨカリキコ、ニカミヲトコアリテソノカ
容姿端正。於是有神壯夫。其形
ホスガタヨニタケヒナキガサヨナカニタチ
姿威儀於時無比。夜半之時。倏
マチキツカレアヒメデ、スメルホドニ
忽到來。故相感。共婚。供住之間。

未經幾時。其美人妊身。爾父母
イクダモアラネバソノヲトメハラミヌコ、ニチ、ハ、
ソノハラメルコトヲアヤシミテソノムスメニイマシハ
怪其妊身之事。問其女曰。汝者
オノツカラハラメリヲナキニイカニシテカモハラメルトトヘバコタヘケクラウル
自妊。無夫何由妊身乎。答曰。有
ハレキヲトコノソノナモレラヌガヨゴトニキ
麗美壯夫。不知其姓名。每夕到
ツ、スメルホドニオノツカラハラミヌトイフコ、ラモテソノ
來。供住之間。自然懷妊。是。以其

父母欲知其人。誨其女曰。以赤

土散床前。以閑蘇此二字紡麻

貫針。刺其衣襪。故如教而。旦時

見者。所著針麻者。自戶之鉤穴

控通而出。唯遺麻者。三勾耳。爾

即知自鉤穴出之狀。而從糸尋

行者。至美和山。而留神社。故知

其神子。故因其麻之三勾遺而。

名其地。謂美和也。此意富多

君鴨君之祖

知神子^ハ大物主神の御子あり^{云々}を知^ル也
を云^フ白檮原宮段^ニ神御子^ハ何^レ也^バ此^レ其^ノ效^ト子^ト
效^ニ美古^ク訓^レ法^ト○其^ハ曾^ツ礼^ス訓^レ法^ト其^ノ人^ヲ指^シて云^フ
古言^ハ例^多上^ニ出^ル○容姿端正^ハ詞^本與^テ
加^カ理^リ伎^キ訓^レ法^ト其^ノ由^ハ白檮原宮段^ニ勢^セ夜^ヤ陀^ダ多^タ良^ラ比^ヒ
賣^メ其^ノ容^姿麗^シ美^シ所^ニ下^ニ傳^ハ北^ノの^ハ云^フ海^ガ如^ク土^佐日^日
記^スみ^ル所^ニ死^シ子^ヲち^よあり^キ源^氏物^語卷^女小^小
乞^ヒあ^ら乃^レい^やよ^{あり}一^一バ^あり^キ端^正を^書記^スよ
は^ハ伎^キ良^ラ々^々志^シ訓^レ法^ト端^麗閑^麗佳^麗妹^妙端^嚴ふ^レ也^也
小^然訓^レ法^ト万^葉九^長哥^よ其^ノ姿^之端^正尔^ハ何^レ端^正を^書記^ス
は^ハウ^ツカ^ジケ^サニ^ク訓^レ法^ト何^レ端^正を^書記^ス

訓^レ法^キ形^ニ靈^異記^ハ端^正岐^良々^々之^ヲ何^レ也^也
ば^ハ此^レ小^然訓^レ法^ト何^レ也^也何^レ也^也何^レ也^也
多^ク言^ハ佛^相貌^端嚴^ヲ書^紀欽^ヲ猶^始乃^方ま^所何^レ也^也
明^卷小^佛相^貌端^嚴書^紀欽^ヲ猶^始乃^方ま^所何^レ也^也
輕^嶋宮^段何^レ感^其姿^容之^端正^高津^宮段^何レ^名黑^比
賣^メ其^ノ容^姿端^正何^レ也^也○神^壯夫^諸本^ニ神^字何^レ也^也
ハ^延佳^本及^書紀^釋何^レ也^也何^レ也^也何^レ也^也
例^ハ延^佳ハ^アヤ^レキ^ヲト^コ訓^レ法^ト何^レ也^也
例^ハ神^書何^レ也^也何^レ也^也何^レ也^也
ハ^上卷^ニ云^フ表^等古^ク訓^注あり^キ○形^姿威^儀ハ^詞本^須
賀^多訓^レ法^ト朝^倉宮^段何^レ形^姿美^麗見^ゆ須^賀多^ハ

の交會カウケイの氣キを住スす云クりき。此コハ共キ婚コン供ク住クし居ル書クる
 万葉書マンヤクハ字ジあり次ジ文ワハ同ドウ事ジ故コ其キ意イを顯アカく住ルる
 共キ婚コン字ジをバ省セけ家カよシ知チ法ハフ然シカシは万葉四マンヤク小コ君キミ家カ
 を字ジの隨ヰハ訓クニてハ古言コゴトを失スふ法ハフ然シカシは万葉四マンヤク小コ君キミ家カ
 尔ニ吾ワ住ル坂サカ乃ノ家カ道ミチ平ヘイ毛モ乃ノ通トウ住ル城シロ墨シロ坂サカ小コ
 云クわき^{ムスミ}之ノ家カあり古今集コキンシュ四シ典テン侍シ藤トウ原ゲン因イン香カウ朝テウ臣シン女メのナ名ナ
 乃ノ哥カの詞書シ右ミ大臣ヂ住ス次ジあり小コけ毛モは云ク々々又マタ戀コイ業ギョウ
 平ヘイ朝テウ臣シン紀キ有ユウ常ジョウガ女メ小コ住スキ法ハフを恨ウラむ亦マタ事コト何ナニのノ志シハ
 一ヒトれあり必カナラ畫ヒルハ來キてゆユふシりハ還カ至シ乃ノみ志シけ毛モハ
 云ク々々拾遺集シツイシュ物モノ名ナ哥カ小コ年ネンを經スて君キミを乃ノみ了マツルる寢ネ住スつ
 是コト異ヒ腹ハラ小コやハ子コをバ生ウマ法ハフき此コノ婚コン法ハフを隱カケて寢ネ住スつ
 詞シ

此外コノ歌ウタ集シュ物モノ語ゴ書ショハ常ジョウ多タク云クふ事コト多タク云クふ事コト云クふ事コト○未メ
 經キョウ幾キョウ時ジハ伊イ久ク陀ダ母モ阿ア羅ラ泥ネ婆バ學ガク訓クニ法ハフハ万葉五マンヤク丁テイ小コ摩マ
 多タ麻マ提テイ乃ノ多タ麻マ提テイ佐サ斯シ迦カ閑ケン佐サ祢ネ斯シ欲ヨク能ネ伊イ久ク陀ダ母モ阿ア羅ラ
 祢ネ婆バ云ク々々十ジュウ七シチ丁テイ小コ左サ泥ネ始シ而ニ何ナニ太タ毛モ不フ在ザイ若ニハレ白シロ榜ヘウ帶オビ可カ
 乞グシ哉ヤ戀コイ毛モ不フ過カ者バ小コ依ヨ住ルの未メ幾キョウハ小コ河カら
 ぬヌ小コ河カ云ク意イの古言コゴトハ凡ソボて奴ヌ尔ニ云ク法ハフを沿ゾク婆バガ
 引ヒキよヨ万葉十マンヤクの哥カ乃ノ不フ過カ○姓セイ身ミハ波ハ良ラ美ミ奴ヌ訓クニ法ハフ
 有ユウ小コ河カハ不フ過カの意イハ○姓セイ身ミハ波ハ良ラ美ミ奴ヌ訓クニ法ハフ
 十ジュウ下ゲ切キ懐クワイ姓セイハ同ドウ○自ジ姓セイ此コノ自ジハ上シヨウ卷マク又マタ自ジ吾ウ子シ也ナリ
 自ジ我ガ勝シヨウまニ天テン原ゲン自ジ割カツまニ自ジ得トク照シヨウ明メイもニ河カ自ジ
 小コ同ドウ々々了マツル固コウ理リ云クまニて小コ河カハ比ヒ切キ云クむガ如ニキ意イハ

星彼處々を考合せて曉ふ。此事既傳ハ葉あり
云の、此ハ此ハ姓身ふらる。疑も然く著明き意
云依辞あり。無夫云云係する。夫ハ表り訓
上卷須勢理毘賣命乃御哥。那遠岐且遠波那志
宇流波志伎壯夫之其名母斯良奴賀訓法。有字ハ
ら波又姓名をバ。那訓法きなり。此ハ水垣宮御
世より前の方事。いませ。姓云物あり。漢
文ハまよぬ。世にハあり。然ハ姓名ウナ。訓法
ハ名ハ知らぬ。云。何處の如何ある人。知ら
ぬ意も具る。○毎夕到来ハ用碁登尔伎互訓法。

○赤土ハ波迹ヲ訓法。其由ハ上卷又出て其處傳十
十九。師ハ曾本尔。訓法。其ハ波。床前ハ
師の登許能倍。訓法。依法。赤土を床前
ハ散次ハ何せむ料あり。下ハ其由見せられ。推度
至て思ふ。此赤土ハ著る。足跡を視て其人の出
往。方を知む。設。若然ハ戸乃外。設
ハ衣欄。赤土の著染。識。其人を認。知ら
む。何。此。次。の。蘇。麻。事。ハ。足。里。ぬ
種。の。事。を。失。ひ。構。り。む。時。の。設。二。又。思。ふ。床。前。の。下
ハ。又。云。辞。乃。無。き。ハ。此。赤。土。ハ。南。蘇。麻。の。事。ハ。屬。て。異

蘇ソ云處ヲを云シ形レ也。○如教而ハ表斯レ閉志レ碁登斯レ互テ訓レ法ノ斯レ互ハ為レ而テ○且時ハ阿志多途ニ訓レ法ノ又都ノ登メ米テ互ル訓レ法ノ其由ハ傳十八ハ葉ハ云レ此ハ彼ノ壯夫ノ例ノ乃ク來テ宿テ還去シ朝レ也。○釣ハ迦レ岐ノ訓レ法ノ和名抄門戶具ノ揚氏漢語抄云レ釣匙門乃加ニ岐一云加良加岐ニまニ四声字苑云レ鑰ノ開具也揚氏漢語抄云レ鑰匙門乃加ニ岐一云加良加岐ニまニ四声字苑云レ鑰ノ開具也揚氏漢語曲里ニあるを云テ今世ノ少シ然至リ釣ノ之ノ手テ明宮殿ニ以テ釣ニ探其沈處ヲあル也ヲ其形ノ就チ何物モあル云レ門戶ノ鑰ノ乃名ノもシ也ヲ漢國ノ形ノ曲

協コウ具ノ多シ也。○控通而出ル師ノ此レ伎登富理傳レ互テ訓レ法ノ恒ニ通シトホリテ訓レ法ノ此レ通シ也。○坐ス故アリ然ル也ハあル父母ノもシ知ラずシ也。○三句ハ美和ニ訓レ法ノ下ニ別家土佐風土記ノ此レを即三輪ノ書ク乃ク冗ニ長キ物を曲ル圓ニもシ也。和ニ云フ輪ル此レ何レ也ヲ然ル次ニを和賀奴ノ和ニ具ノ云フ和賀ノ賀ノ奴ノ切カ此レ榮ガありル物ヲ指シ云フ和賀ノ云フ本ノ言ス也ヲ和賀ノ賀ノ奴ノ和賀ノ賀ノ奴ノ三句ヲ美和賀ノ云フ和賀ノ賀ノ奴ノ訓レ法ノ此レ上ニのレ唯ニ此レ三句ノ係ス

○古事記傳二十三

○五十二

て心得法し。○耳くくハ能美ヲ訓法し。記中此字を置
美ヲハ訓まじたし。能美ハ物を事成ル局至て其
首卷ハ論ず保が如し。能美ハ物を事成ル局至て其
より餘乃無きを云。詞あり。作て遺せし麻の事ハ此
は要あまれず。次ハ美和乃地。名乃由縁を語む
先ハ先言おとあり。合ハ文章作む人ハあり。後ハ
おく心得お。○爾即ハ此ハ加礼許々爾ヲ訓法し。故爾
故於是あぢり。○系。延佳本ハ。絲ヲ作至。同ト
和名抄ニ。絲和名伊度線。訓以度須知。何れハ。作上ハ
ル下ハ。麻ヲ乃み云。此ハ。系ヲ。云々。云々。云々。
心を著法し。上下あは。其物乃實成云。法き。云々。云々。此

ハ其引延行て何れを。尋行を云。係處あま。バ。麻ハ
何ハ。ま。れ。も。其。縷。を。云。て。宜。き。處。あ。れ。バ。明。り。○尋行
此。も。ゆ。ゆ。く。人。ハ。即。活。玉。依。毘。賣。切。る。法。し。云。係。趣。ル
然。○美和山ハ。万葉を始免。代々乃歌あぢり。甚多く。
殊ハ名高き地あり。出雲國造神賀詞ハ。大御和乃神
奈備ヲ。何れ。古今集ニ。我廬ハ。美和ノ山。戀。く。は。ゆ
ハ。美和乃御奇。や。る。せ。り。今。思。ふ。此。ハ。故。事。ハ。六。帖
ハ。此。時。ハ。美和神乃。よ。み。賜。了。係。ハ。擬。了。よ。知。る。奇。な
美和川。朝倉宮。段。ハ。見。え。万葉十ハ。奇。何れ。○留神社
ハ。彼。引。延。來。て。あ。係。系。の。此。御。社。乃。内。ハ。入。り。て。此。處。を
限。り。て。終。了。云。○因其麻之云々。彼家ニ遺せり。

麻の量を以て此地乃名は負けむらう。他より思ふ
ばい物遠きが如くおれぬ。此ハ其女の家より言
初名なるは、然依ハ乃翌朝南蘇は巻ゆる許多
乃麻のさづかみ唯三句乃み遺るを始免て見よ
時乃心残以て三句遺る麻を認行し處云意よて
美和の云初は、○書紀は十年云々是後倭
迹迹日百襲姫命為大物主神之妻然其神常晝不見而
夜来矣云々の事。全文ハ黒田宮段彼此賣命の下傳也
ルハ其処。此乃故事のいよよく似ゆり土佐國風土記
ハ倭迹々媛皇女為大三輪大神婦每夜有一壯士密来

暁婦皇女思奇以綜麻貫針及壯士之曉去也以針貫櫛
及且也看之唯有三輪遺器者故時人称爲三輪村社名
亦然。ハ二を一ツ小語傳了る。此ハ又後世
乃書ゆりぬ似る。故事を記せ。彼此のり。○神
君一本は大神君あり。神字美和。訓里抑美和を
神書ゆりぬ。古大倭國ハ皇大宮敷坐里御代ハ
此美和大神を殊は崇奉らして。小大神乃み申
世ハ即此神の御事ありし。既ハ神紀八年の下
祭大神の御事あり。美和大神あり。此乃大神をホ
ハ言足。遂は其文字をやがて大美和云用。此
○古事記傳二十三
○五十四

乃のぞけれ里けむ。かの飛鳥云字改やがて明日
休ま。小大を省きて云ゆ。又神字を用ひしゆめけ
里和名抄。大和國城上郡の郷名大神於保無和無
云。あの中古よりの音便ありて正し。又和字を今
本に知作あり。後の写誤あり。然るを大己貴の貴を
思ひよせし。ホホ。中昔の書ゆり。多し。意富字
和。多し。此の音便あり。又。昔の書ゆり。多し。意富字
便多。皆正し。古言の非。又後世。意富和。也。音
意富賀。和。云。いよ。訛。其の中。意富賀。和。世
云。和。心。得。其。神。乃。器。の。迦。を。訛。和。世
改。初。然。心。得。其。神。乃。器。の。迦。を。訛。和。世
此。氏。の。書。紀。神。代。卷。ゆ。云。々。此。大。三。輪
之神也。此神之子。即甘茂君等。大三輪君等云々。ま。此

御卷。所謂大田々根子。今三輪君等之始祖也。見ゆ。
休て垂仁。卷。三輪君。祖大友主。云見ゆ。舊事紀四。
大田田祢古。命乃子。大御氣持命。其子大鴨積命。次大友
主。命。此。命。磯。城。瑞。籬。朝。御。世。賜。大。神。君。姓。云。天。武。紀
小。五。年。八。月。大。三。輪。真。上。田。子。人。君。卒。天。皇。聞。之。大。哀。以
壬申年之功。贈内小紫位。仍諡曰大三輪真上田迎君。
見。元。同。十。三。年。十。一。月。大。三。輪。君。賜。姓。曰。朝。臣。續。紀。十。七
小。八。幡。大。神。祢。宜。大。神。社。女。主。神。司。大。神。田。麻。呂。二。人。賜
大神朝臣之姓。北九。大和國。人。大神引田。公。足。人。大神
私部公猪養。大神波多。公。石。持。等。北。人。賜。姓。大神朝臣。姓

氏録大和國大神朝臣素佐能雄命六世孫大國主之

後也初大國主神娶三嶋溝杭耳之女王玉擲姫夜未曙去

未嘗晝到於是玉擲姫續草係衣至明隨草尋覓經於茅

渟縣陶邑直指大和國御諸山還視草遺唯有三縈因之

号姓大三縈一本御諸山の上真德二字あり元々

誤さる如く且凡ての文も皆き過してさるり足ぬ處

あり又三嶋より義和山に到らむ小茅渟縣を經し

大三縈号を心得ぬ文あり御子を生子と云ひ

云けし姓云は類聚國史十九弘仁十二年八月以

大神宇佐二氏為八幡大菩薩宮司臨時祭式小凡八幡

二氏補之三代實録四大神朝臣庸主卒庸主者右

得難補他氏京人也自言大三輪大田々根子之後庸主本姓神直成

名之後賜姓大神朝臣六真神田朝臣全雄賜姓大神

朝臣大三輪大田々根子命之後也五十小大神朝臣良

臣向官披訃云々切や見えたり此姓も神也

大神也云々大言初あり有無一定まらばり

いふ書紀に出る所々定まればなり天武紀

同人の如く見え續紀二小此を神麻加牟陀君兒首

より姓は必大云々那良の御世乃未のころ鴨君

鴨ハ地名して大和國葛城上郡の鴨也因生りたり

○古事記傳二十三 ○五十六

氏ハ上小引不舊事紀四小大田々祢古命の孫大鴨積
命此命磯城瑞籬朝御世賜賀茂君姓也云り書紀神代
君等大三輪君等甘茂君を先よ次で卷小甘茂
奉らば云り兄の後ある故りや云り天武紀小鴨
君蝦夷也云人見え云り十三年十一月鴨君賜姓曰朝
臣續紀廿五小天平宝字八年十一月復祠高鴨神於大
和國葛上郡高鴨神者法臣圓興其弟中衛將監徒五位
下賀茂朝臣田守等言昔大泊瀬天皇獵于葛城山時有
老夫每與天皇相逐爭獲天皇怒之流其人於土左國先
祖所主之神化成老夫爰被放逐於是天皇乃遣田守迎
之令祠本處高鴨神須岐託彥根命神社四座也此の姓

氏録大和國別小賀茂朝臣大神朝臣同祖大國主神之後
也大田田祢古命孫大賀茂都美命一名大賀奉齋賀茂
神社也此賀茂神社ハ右の高鴨神社乃み云
社此を合せ云り此を合せ云り此二社の神
命乃子孫の齋奉ふ命乃子孫の齋奉ふ
氏録小鴨君賀茂縣主鴨縣
志道其子建沼河別命者遣東

トヲマリフタミチニツカハシテソノマツロハヌヒトバモヲ
方十二道而令和平其麻都漏

波奴コトムケ自麻下五人等又日子坐ヤハサシメマタヒコイマスノ

王者遣且波國令殺玖賀耳之ミコヲバタニハノクニツカハシテクガミノミカサヲトラシメ

御笠タニヒキ此人名者也玖賀二字以音コハヒトノナナリ

大毘古命ハ境原朝の皇子小く彼御段ミクダリ又出ぬまはる玉
○高志道高志ハ越國よて上卷ウヘマキ出ぬデ傳ツ十一道トの事ハ

次ハ云式ニ越中國射水郡道神社加賀國石川郡味知
命之後也神事あり姓氏録小道公大彦命孫彦屋丰田心
命此命の事ハ境原宮段又出ぬ傳北二○東方十二道東
方ハ比牟加志能加多ヒムカシノカタ訓造方を師の倍々訓造
倍ハ古ハ凡東南西北テヒカシニテニレキタみ加多カタ云々を多く漆
て云ハ例テなり十二道ハ十二國を云あり國造本紀上
野國造條ハ東方十二國テあり上ノ高志道ハ下文ハ高
志國志あり又孝德紀ハ前ニ以良家大夫使治東方八道
既而國司之任ニキ六人奉法二人違令云々コレ此ハ國
司八人の事を云テ依テよて八道ハ八國アキあり明アキらけ

八國ハ此の十二國ヲ
内ノ八國アル者ナリ
何モ乃國々を合

せらる數より今所が
あか知がくくはれ
あかろみ

小云バ伊勢伊賀志摩ハ此
尾張參河遠江駿河甲斐伊

豆相模武藏總上総下総あり安房ハ後
常陸陸奥此國

ハ東海道ハ入ラれ
下支小往遇于相津
ハ後

事乃見之蝦夷を言向
ふまふあり
あききう倭建命段

あり東方十二道
あり是上代の定
ありきむし

所て國を道
云ハ朝廷より其國を治
先小人を遣次

小就て云称あり
先神代小天尾羽張神の言
小恐之仕

奉然於此道者
僕子建御雷神可遣
ハ天神乃御

使小答白し賜
所言小此道ハ葦原中國を言向

ハ罷行
を云り所て黒田宮段
ハ針間為道口以言

向和吉備國
ハ河所ハ針間を言向
所國の初ハ

為道口
云ハあり又丹波道主
ハ申以王乃名ハ丹波

國を治
先小遣所賜
小因了道主ハ申
ハ形ハ

此等其段々
又北二の六十二葉
を見考合次
ハ上

小高志道
ハあり道ハ此意あり
此を書紀ハ北陸
ハ後

云北陸道の
ハあり義足ハ心
ハ後ハ東海道東山

道切
云名を建て天下を總て
畿外を七道
分定先

られ
ハ漢國の制
唐太宗が時ハ彼國內を

至。小好。ひ且。上。代。あり。云。来。ち。称。あり。沿。賜。了。依。
物。好。る。依。抑。畿。外。を。都。て。七。道。也。分。ち。又。其。名。也。り。成。
孝。德。紀。二。年。小。畿。内。の。疆。を。定。め。り。御。世。也。云。云。り。詳。
孔。也。り。其。延。み。七。道。乃。こ。の。見。え。し。て。同。年。乃。文。
小。東。方。八。道。也。あ。り。七。道。乃。こ。の。見。え。し。て。同。年。乃。文。
ま。ご。都。て。を。分。て。七。道。也。せ。り。制。す。り。無。り。里。こ。の。知。
ら。ま。ふ。り。然。依。お。彼。紀。乃。此。御。卷。お。し。七。東。海。北。陸。也。
河。依。り。後。も。出。来。ぬ。名。を。以。て。記。す。れ。ぬ。物。小。し。く。
當。昔。乃。名。小。の。非。此。記。お。東。方。十。二。道。高。志。道。也。あ。
依。ぞ。古。乃。称。お。は。あり。孝。德。紀。より。前。小。あ。り。依。名。也。り。
の。見。え。し。て。依。り。後。の。を。以。て。記。す。れ。ぬ。山。南。山。北。也。云。云。
小。山。陽。山。陰。也。何。地。小。ま。れ。山。南。山。北。也。云。云。り。
り。て。山。陽。道。山。陰。道。也。云。依。り。非。此。也。七。道。也。云。
る。也。り。文。武。紀。小。始。を。見。え。し。て。遣。字。一。本。小。の。東。
字。の。下。小。あり。一。本。小。の。方。字。の。下。小。あり。○。麻。都。漏。波。
子。な。誤。あり。今。の。延。佳。本。又。一。本。小。依。り。

奴。の。白。檮。原。官。段。小。不。伏。人。也。河。依。下。六。十。七。葉。小。云。云。
が。如。し。○。和。平。八。許。登。牟。氣。夜。波。須。也。訓。治。し。此。言。の。例。
原。官。段。小。引。依。文。也。此。の。上。乃。高。志。道。を。り。合。せ。て。云。云。
水。を。見。て。知。る。依。し。此。の。上。乃。高。志。道。を。り。合。せ。て。云。云。
那。り。○。日。子。坐。王。伊。邪。河。官。段。傳。北。二。乃。小。出。○。且。波。同。
官。段。傳。二。小。出。○。玖。賀。耳。之。御。笠。ハ。服。従。ハ。ぬ。輩。乃。渠。帥。
乃。名。好。る。依。し。其。小。也。子。也。玖。賀。耳。ハ。姓。也。り。聞。え。し。地。
名。り。也。思。子。也。丹。波。小。此。地。名。物。も。見。え。し。周。防。國。小。也。
依。お。ふ。り。く。小。心得。か。し。若。く。ハ。此。ハ。御。笠。也。ハ。別。人。
小。して。二。人。の。名。り。然。ら。ば。之。字。ハ。及。あ。り。ハ。又。を。誤。也。
依。ち。る。依。し。耳。之。也。云。云。何。也。小。し。て。小。如何。ハ。い。

けむるなり。若姓なり。は部字を耳に誤るなり。又首より名なり。中らぬ耳之云云。協名御笠の和名抄に丹後國加佐郡あり。天武紀にも丹波國此地に因る協名あり。令殺の登良斯米賜伎訓詁し殺を登流也。訓之。日代宮段に倭建命詔之。西方有熊曾建二人。是不伏无礼人等。故取其人等而遣ま之。取伊服岐能山之神幸行。倭建命乃穴穗宮段に人取天皇。弱王の天皇を奉。如所依る。子殺を取。云り。又倭建命段に意礼熊曾建二人。不伏无礼聞者而取殺意礼詔而遣之。取殺書ふ。此も例。

依て二字を引合せて登礼訓詁し。即此詔命右に取らる。玉垣宮段に擊沙本毘古王之時あり。擊を。然訓詁し。万葉六の千乃軍奈利友言奉不為取而可来。男常曾念。藤原宇合卿西海道節度使小。討平けて帰来。延喜十四年渡會神主本系帳に卷向玉紀宮御宇天皇御世越國荒振兇賊阿彦在天不從皇化取平仁罷止詔天標劍賜遣支即幡上罷行取平天返事白時天皇歡給天大幡主名加給支。國能美郡幡生神社あり。生字ハ主を誤る。王常鷹の鳥を取。猫の鼠を取。鵜乃魚を取。云類。

故大毘古命罷往於高志國之

乃取也。乃同意あり。○注の者、字延佳本、小ハ無、ケ、也、ウ、係、處、ハ、み、ひ、者、書紀云く、十年九月、以大彦命遣北陸也、武渟川別遣東海、吉備津彦遣西道、丹波道主命遣丹波、因以詔之曰、若有不愛教者、乃率兵伐之、既而共授印綬、為將軍、彦命乃其國を言向、吉備國なり、此記ハ、非、此、命、の、出、見、え、ふ、り、其、時、代、の、傳、乃、異、也、ハ、切、り、丹、波、道、主、命、の、傳、乃、異、也、ハ、御、子、切、り、御、父、子、の、間、傳、乃、異、也、ハ、形、り、此、ハ、書、紀、の、方、や、正、し、か、ら、書、き、

時服腰裳少女立山代之幣羅

坂而歌曰古波夜美麻紀伊理

毘古波夜美麻紀伊理毘古波

夜意能賀袁袁奴須美斯勢牟

登斯理都斗用伊由岐多賀比

麻幣都斗用伊由岐多賀比宇
 迦迦波久斯良爾登美麻紀伊
 理毘古波夜於是大毘古命思
 怪返馬問其少女曰汝所謂之
 言何言爾少女答曰吾勿言唯

爲詠歌耳即不見其所如而忽

失

高志一本又一本小但馬作作^ア係^ハ字^シ形^シ似^シ次^シ係^シ小^シ
 由^ユ小^コ切^キき^キこ^コ形^シも^モ小^コ如何^{イカニ}して^シう^ウハ誤^ア里^リけ^ケむ今^{イマ}ハ真^{マコト}
 福寺本延佳本小依也里○罷往ハ麻迦理伊麻須^ス訓^ン
 倭^{ヤマト}ノ往^{ユキ}を伊麻須^ス云^{イハ}係^ハハ万葉^{マンヤク}五^{イツ}三^{サン}十^{ジュウ}一^{イチ}丁^{テイ}小^コ唐^{タウ}能^ネ遠^{エン}境^{キョウ}尔^ニ
 都^ツ加^カ披^ヒ佐^サ礼^レ麻^マ加^カ利^リ伊^イ麻^マ勢^セ十^{ジュウ}二^ニ三^{サン}十^{ジュウ}二^ニ丁^{テイ}小^コ山^{ヤマ}越^{ユキ}而^ニ往^{ユキ}座^ザ君^{キミ}
 乎^ヤ者^ハ十^{ジュウ}五^ゴ丁^{テイ}小^コ大^{ダイ}船^{フネ}乎^ヤ安^{ヤス}流^ル美^ミ尔^ニ伊^イ多^タ之^シ伊^イ麻^マ須^ス君^{キミ}又^{マタ}五^{イツ}

○古事記傳二十三

○六十三

多ク夫須麻新羅邊伊麻須光四十小安之我良乃夜敵
也麻故要豆伊麻之奈婆切あ多うり後世お某處
牙おほしま次あ云り同トああなり○腰裳ハ字の隨
小許志母あ訓法延佳も師も二字をふも母あ訓を
を書法き小腰字を添あ姓氏録葛木襲津彦命男腰裙
宿祢あ云人名もあハ母あ訓万葉あも裳小此字を
書處あ古然云服の名ありあなりあハあ尋常の裳
ハ別物あハあ常の裳を然あ云あハあ其差ハ詳あ
次あ台記別記あ久安六年正月十日あ女御入内同あ廿二日
物唐衣白腰裳あ三月五日臨時祭打出あ云々蒲萄漆
唐衣あ欸冬腰裳あありあ此あハあよあれあぬあの裳を云るあ

別物あ未あよく考あ了あ次あハあ他の記録あふみあなりあ此あ名見
えあふあるあぐあやあおあぢあゆあれあやあ今あふありあ小得思出あハあいああ
まれあ此あハあ後世あのあやあれあハあ上代あハあ云あふあやあ同物あハあ
思あはあれあ次あハあてあハあ物あの類あハあ後世あの例あを以て
ハあ上代あハあ事あハあ云あハあけあはあせあやあ名あのあ上代あハあ禪あをあ母
同あハあきあ小あよりあてあ引出あちあるあハあなりあ其由ハ傳六あの四あ其
やあ云あちあるあわあやあおあぢあハあ起事あハあバあ十八葉あハあ云ありあ小
小別あむあるあ免あふあ表あ小著あ依裳あをあバあ腰裳あハあ云ありあ小や
ああハあむあ但あ万葉あの哥あぢあやあ小依あてあ思あふあハあ古あハあ裳あハあ女あの
おあハあぢあ法あハあ服あふありあ小物あああるあ小此あハあ此あを服あハあ依あるあや
を殊あハあ云あ依あハあ尋常あの裳あハあ非あふあハあ故あうあ又思あふあハあ此
ハあ此あ記あめありあ書紀あありあ共あハあ少女あやあ書あきあ童女あやありあ書紀
小書あ也あふあれあハあいまあぢあ幼あきあ女あああるあ法あハあ後世あハあ女

小裳著せし初て此を服不儀乃何處を思ふ上代も童女の布幣の裳の服ざりしあやぶるに此少女乃服てあはれ尋常のよえひふ非不故小殊云はれ小也何む此物乃事むかよく考ふ法し○服ハ祁勢流也訓法し伎多流也よまむも倭建命の御歌小那賀祁勢流意須比能須蘇尔也何りて著而在也云意の古言何りふ不彼御歌乃下傳北ハの小云法し○山代之幣羅坂古倭より越國より山城近江を經て下至し何り何幣良坂也云ハ書紀傳ニ平坂也あり幣也此云一那羅郷何處小依て此平坂をナガカケ訓るはと

其道次也ハ聞えぬれ也此より外小物も見えぬは何處ばうり小在ぬ詳あり次此時乃何を思ふ相樂郡の内倭國乃境小近き地也何を法し其あり乃地理をよく尋ねバ考知らぬあやぶる津川より南ふる○歌曰ハ宇多比祁良久也訓法し○倭國の境あり古波夜此三字延佳本小無きハ書紀也看合せし法三言乃句あり此ハ美麻紀伊理毘古波夜也句の調を助け勢を何せむと先小其詞乃末を截取て先初小わく歌ひ出ふる物あり凡て歌ふ物小ハ今ハ何類多し○美麻紀一句何り○伊理毘古波夜此二句ハ

天皇乃大御名ゆして波夜ハ歎く辞あり。此事倭建命
 段阿豆麻波夜ハ歎く處傳七の葉八十一葉ハ委云云。此
 二句を再重編て歌了。此ハ歌多物の常切中ニ歎き
 乃深切あり。○意能賀表表上乃表字諸本皆素也
 作協ハ写誤あり。今ハ書紀ニ此句飲酒餓鳥塙あり
 小依て改免形師ハ素を用ひて。巢あり。上卷小御巢也。
記中ハ素字を假字又用ひて。例ハ表字ハ赤裳表
且ス。其意解。此ハ表の誤あり。師説の如く。柄の
義ハ若。栖。後。前。小ハ因。あれ。殺む。云。小ハ叶
賀此の下ハ在。下ハ。須美。斯。勢。年。登。云。二句。伊。由。岐。多
 意能賀ハ御真木入日子の己がなり。作者の己表ハ命

云むが如し。凡て物を續け持て不絶らむ。此物也。
 表云。緒も此意乃名切の命ハ生の續きて絶ぶ。此間
 也云あれハ是を表す。云ふなり。又多麻能表也
 也云あり。魂を放らば。持續く。此あり云。年
 緒長く。云。年の長く續く。又万葉歌ハ多
 く氣緒ハ思ふ。云。此ハ。氣ハ借。生ハ緒。乃意めて。命
 わけて思ふ。云。此ハ。十一の四十一葉
 正字ハ。又十四。い。ま。吾。為。不。何。生。ハ。命
 命ハ。氣。緒。ハ。息。の。命。ハ。生。の。緒。あり。右の言
 小ハ非ト。思。命。ハ。生。の。緒。あり。右の言
 也を考合せて。意能賀表ハ。己が命ハ云義あり。云。此

ふく非あり古、農をハの假字亦用ひくはありな殺を
く又詔をハスノクハいりてりもいふ法き
斯勢云海ハ上巻沼河日賣の歌ハ伊能知波那志勢
多麻比曾ハあり其處ハ委々云り傳十一の ○斯理都
斗用ハ斗清音あり濁 自後戸切り ○麻幣都斗用ハ自
前戸あり ○伊由岐多賀比ハ伊ハ發語ハ行違切り
是ハ皇官乃殿の戸口ハよめて出入人目を伺ひて見
おけらるトハ彼方ハ此方ハ避違ひて竊ハ入むも窺
ハ紛々不状態云海切り高津宮段ハ口子臣ハ事を云
海處ハ參伏前殿戸者違出後戸參伏後殿戸者違出前
戸ハあり語よく似あり 書紀ハ依ハ建波迹安王ハ已
ハ山代ハ其妻ハ大坂ハ

皇分是て攻むるを後戸あり前戸あり ○宇迦
云海ハありむろ思ふ其まじハありし ○宇迦
迦波久ハ窺はくあり ○斯良爾登ハ不知ハ切り不知
を斯良爾登云ハ古言ハ万葉切りあり常多ハハ
奴ハ活轉切り法ハ登ハ万葉二ハ鴨山之磐根之巻有
吾乎鴨不知等妹之待乍將有ハあり等ハ同トて知
らぬト切りてハ云意あり書紀ハ此登ハ辭切り
無きハ大ト 作て書紀ハ此次ハ比賣那素寐殊望
乃意ハ同ト 作て書紀ハ此次ハ比賣那素寐殊望
ハ云句あり法此ハ然ハ言ハ切りて結ハハハ足
は如聞ハハ然ハ其由ハ次ハ云 ○美麻紀句
伊理毘古波夜如此結ハハ云々ハ者ハあり切

も所知者さぬるやして何の御心もぬるて坐す此こ
やよや深く危ぶみ歎き奉依意お乃たううあるまて
聞ゆ依なり何心もぬるて坐す此こ云意を言
外ふく然と依なり彼比賣那素寐殊望
意乃るも此依なり此ハ其事を指て云ふ依小深き
意乃るも此依なり此ハ其事を指て云ふ依小深き
乃たうう心小くあぶ物を○一首の總て此意ハ已命
の大御命をひそり殺奉むして大殿を左小右小窺
ひ奉依者乃たうを所知者さぬあやして御真木入日
子命ハよ何の御心もぬるて坐す此こやよや危ぶみ
歎きてよえなう驚りし諭し奉依者さぬあやして大御
名を二ふび三ふび打返し申し結先ハ依又限りぬ

く深き歎けの聞ゆ依なり書紀云大彦命到於和珥坂
上時省少女歌之曰一云大彦命到山背平坂弥磐紀異
利寐胡播椰飲迺餓焉志齊務苔農殊末句志羅珥比
賣那素寐殊望農殊末句ハ竊まくりなり此賣那素寐ハ
能阿ハ那切契冲ガ媛遊ありや云依さる所ハ能阿ハ那切
山小来ち事切一首の總てを吾田媛を誠む山小来ち事切
詞や云ふハいみじき非あり吾田媛を誠む詞を大
彦命ハ告て何よかハせむ此記の哥ハ美麻紀伊理毘
古波夜ハ結先ハ集りて其誤り殊小ハ給ふを云依
ハ天皇ハ美女を集りて其誤り殊小ハ給ふを云依
一云於朋者妬庸利于介伽早成許呂佐務苔須羅句
塙志羅珥比賣那素寐須望三句の異ハ何れハ塙志羅珥比賣那素寐須望
塙以下四句ハ全ク一首ハ非なり契冲ガ媛遊ありや云依
哥の意ハ此記乃た金同ト云なり契冲ガ媛遊ありや云依

みくつ。此、初めの二句は。○思怪一本は思字を異作
せ殊に穩か。後らそ。○返馬ハ駐せ。所を返せ。あ
里其小聞えり。○返馬ハ駐せ。所を返せ。あ
は彼少女ハ歌を詠ひて。大毘古命の来坐し。方
所往ちあひて過ぬ。故小其方引返し賜ふ。な
し。○何言ハ。繼躰紀の哥小。柯羅履你嗚。以柯你輔居等
所。梅豆羅古。枳駭樓。韓國を如何言そ。也。也。小依
て訓法。此哥あ。如何事。云意。て。い
此。○為詠歌耳。字多表許曾字多比都礼也。訓法。
同。○許曾云。辞小。耳字の意。何。勿言也。乃み答て。止
亦。首。答。云。亦。が。如。い。勿言也。乃み答て。止
次。て。如此。も。云。亦。ハ。凡。て。歌。ハ。直。小。云。常。の。言。乃。比

小非。改。意。を。こ。え。く。物。を。人。小。喻。以。り。休。み。一。所。れ。バ。常
乃。言。の。比。小。あ。わ。よ。え。小。勿。聽。賜。ひ。え。心。也。先。賜。了。也。
此。答。あ。る。法。一。○即。不。見。其。所。如。而。如。ハ。往。ハ。由。玖。幣。母
美。延。受。了。訓。法。一。由。玖。幣。ハ。行。方。也。云。之。也。然。亦。也。
行。末。の。辭。也。心。得。て。由。玖。幣。也。書。ハ。違。
之。問。童。女。曰。汝。言。何。辭。對。曰。勿。言。也。唯。歌。耳。乃。重。詠。先。歌。
忽。不。見。矣。
カレ。オ。ホ。ビ。コ。ノ。ミ。コ。ト。サ。ラ。ニ。カ。ヘ。リ。マ。キ。ノ。ボ。リ。テ。ス。メ。ラ。ミ。コ。ト。ニ
故。大。毘。古。命。更。還。參。上。請。於。天

皇時。天皇答詔之。此者爲在山

ラストキニスメラミコトノリタマハクコハオモフニヤマシロノ

代國我之庶兄。建波邇安王起

クニナルナガマ、セタケハニヤスノミコノキタナキ

邪心之表耳。波邇伯父興軍。

コ、ロラオコセルシルシニコソアラメ。波邇ニヲヂイタラオコレテ

宜行。即副丸邇臣之祖。日子國

ユカセトノリタマヒテスオチワニオノオヤヒコクニ

夫致命而遣時。即於丸邇坂居

フクノミコトヲソヘテツカハストキエワニサカニイハヒ

忌菴而罷往。於是到山代之和

ベラスエテマカリマシキコ、ニヤマシロノワカラガハ

訶羅河時。其建波邇安王興軍。

ニイタレルトキニソノタケハニヤスノミコイタラオコレテ

待遮。各中挾河而對立相挑。故

マチサヘキリオモクカハラナカニオキテムキタテアヒイドミキカレ

號其地。謂伊杼美。今謂伊豆美

ソコノナヲイドミトイヒシヲイハイツミト

也。爾日子國夫致命。乞云其廂

イフコ、ニヒコクニブクノミコトソナタノヒトマツ

イハヒヤハナテトコフマ、ニニケハニヤスノ
人先忌矢可彈。爾其建波爾安
ミコイツレドモエアテザリキコ、ニクニブクノミコトノ
王雖射不得中。於是國夫攻命
ハナテルヤハタナハニヤスノミコニアテ、シニキ
彈矢者。即射建波。邇安王而死。
カレソノイクサコトクニヤブレテニゲアラケヌコ、ニソノニグルイクサヲ
故其軍悉破而逃散。爾追迫其
オヒセメテクスバノワタリニイタルトキニミナセメラエ
逃軍。到父須婆之度時。皆被迫

タレナミテクソイデ、ハカマニカ、リキカレソコノナヲクソ
窘而屎出。懸於禪。故號其地。謂
ハカマトイヒシライマハクスバトイフマタソノニグルイクサヲサハ
屎禪。今者謂父須婆。又遮其逃
ギリテキレバウノゴトカハニウキタリキカレソノカハ
軍以斬者。如鷓浮於河。故號其
ヲウカハトイフマタソノイクサビトヲキリハフリシ
河。謂鷓河也。亦斬波布理其軍
ユエニソコノナヲハフリソノトナモイフ
士。故號其地。謂波布理曾能。自
波

以下五字

如此平訖參上覆奏

更ハ請也云まをみ係也至。還也云ぬりみ。一ふび

辞申し、て上道し、ちるが又更ハ請見申比意ぬる云

依言あり。○請ハ麻表類也訓かろ幣良坂おろ少女の

詠ひし歌の趣おわろを知らん大事おろ聞棄しおと

ありし故ハ更ハ請見て其ありちる。状を奏次なり。○

答詔答也ハ常おハ人乃物を問ふちきて言を云了也

ハ此あやハ必し然ら次も。大毘古命の事を奏比

ハ就く詔ふ次云依あり。○為字。此者ハ於母布尔也

訓比し例ハ上卷ニ為生成國土奈何ま。為穢汚而奉

進高津宮段ハ為人民富あり。此ハ漢文の格を以

之表也云所より返りて云々之表為耳。訓しぬふり也

ル其意あり置ふハ非し又延佳ハ起邪心より返りて

如ハ訓ぬれ也。○在ハ那流也訓比し。那流ハ即尔

辞なり。○我之庶兄我之ハ汝之を誤也依ハ此也見ゆ

也ハ那賀也訓比し其故ハ建波迹安王ハ孝元天皇の

御子ありて大毘古命の兄弟おろそ阿比崇神天皇乃

御兄弟おハあり。崇神天皇おハ異母御叔父ありハ

形。故此をハ師も疑ひて御庶伯父ありを庶兄也書

わら非後且伯父甥の向より兄弟の向に近く親き
そのわられ其兄弟の向に大毘古命の對して詔はむわら
必汝之庶兄の詔多きをわら親しき兄弟を
作しおきてや、疎き御甥の我之伯父の詔をま
きこわらうあそ然亦今諸本共よ我のわらは汝字を
後子字誤をわら又那阿の殊小近き音お通へ
錯ひて安麻呂朝臣の阿の聴取をわら小何心小わ
誦をわら書先ゆるゆり阿の法くや凡て此記の阿礼が
トき小非汝のわら法まわらわら庶兄の麻々勢や
訓法きこわら白檮原宮段傳九葉の小云わら如し作て境
原宮段小奉ゆる皇子ゆるの次第ハ大毘古命ハ初建
波迹安王ハ終わらわら其ハ御母の列小依る物
わらハ實ハ此小詔を依如く建波迹安王を御兄なり

けむ。○建波迹安王境原宮段小ハ建波迹夜須毘古命
のわら。○邪心の伎多那伎心傳七訓法ト既小上卷の四
十三小出ゆる若櫻宮段小僕者無穢邪心傳七なり續
紀九六。此奴等毛如是久逆穢心乎發天在計利止方
既明仁知奴ま逆心乎以天朝廷乎動頃止之天九
小岐多奈久惡奴止母此小惡久穢心乎以天打や見え
あり凡て朝廷小忠あり心を清心なり。明心なり。いハ
不忠の穢心なり云其人を穢奴なり云あり。○表ハ斯流
志なり訓法ト書紀小然訓是徵表ありわら万葉十
九。乎等女等之後能表跡ト天皇の如此詔を按

ふよ大毘古命の申給ふ事大御心オモホ所思オモホ合せ居
あやれあやけふなるば其被建波迹安王のあや
あやろ為人ヒトナリをカネ豫て所知食シロシメ是時既スデあや一死
所行シロシメあやりて疑イッハくあるおせりあやりあや
あやけむ書紀ハ此事百襲姫命の申賜予シメ依て
所知者シロシメも趣あり何色イッあむりありあやり
遣チ訓ム小父の義ヨシあり和名抄ナ伯父和名平知ナあやり
父の兄イを伯父父の弟ケを叔父父の姉イメを伯母父の姉イメを
叔母イメあやり分て云ハ漢國のあやり皇國ミコクの父
の兄イ鏡ミタマ阿伯父アハハ之兄イ江半地阿叔父エハナチアハハ之弟ケ平表ヘラあやり
あやけむあやハ此ハ大毘古命を指して詔多ミコトシあやり書紀
後のノチ稱ナあやり後ハ此ハ大毘古命を指して詔多ミコトシあやり書紀

安閑ヤス卷マクハ其天皇の大伴金村大連を指して大伴伯父ヲダあやり
詔ミコトシハ此伯父アハハをカキカド舒明ユメイ卷マク山背大兄王の蘇我
蝦夷大臣エトシを叔父ヲダあやり乃あやりあやりあやり此ら御伯
叔父ヲダあやハ非次ヒツジあやり父の齡ヨシ乃列ナあやり人ヒトを崇ツカサ免親ヒケタシみして
云稱イハ聞クゆ今俗言イマノコトあり常トコ云云ウツクあやり此ハ殊コトハ實マコト
の大御伯父オホミヤノヲダあや坐マハあやりあやり○宜行ヨシハ由加勢ユカセ訓ムあやり
由氣ユキを延ノボあやり古語コトあり建波迹安王を討トリ小行コトけあ
里サトあやり此處書紀コトハ大彦命乃還カハリ而具ツク以狀奏シテ於是天
皇ミコト始倭迹ミコト々日百襲姫命聰明サト叡智サト能識シ未然乃知其歌
怪言シシ于天皇是武埴安彦將謀反之表者也吾聞武埴安

○古事記傳二十三

○七十五

彦之妻吾田媛密来之取倭香山土巖領中頭而析曰倭國之物實則反之是以知有事焉非早圖必後之於是更留諸將軍而議之ハカリタマヒキ所ニ諸將軍ハ上ニ見エ云々○丸通臣ハ伊邪河宮段小出傳廿二の○日子國夫玖命ナラコ、ロクニムク名義國平小やハ初ハ天帶彦ハ通ハ例多シ市ハ此名乃コれハあリ始ハ祖天帶彦ハ此人ハ姓氏録ハ吉田國押人命ハの御名ハ因テ依テ小ハ也ナ此ハ人ハ天帶彦ハ條天帶彦國押人命ハ四世孫彦國菴命ハ又ハ真野臣和朝臣ハ天足彦國押人命ハ三世孫彦國菴命ハ見エ云々○副ハ大毘命ハ傳ハ廿二の四十の子若ハ孫ハ也ナ法ハ書紀垂仁卷

五人の大夫マツキミ乃中ハ也ナ和珥臣ハ遠祖彦國菴命ハ見エ國造本紀ハ也ナ和迹臣ハ祖彦訓服命ハ見エ云々○副ハ大毘古命ハ副シ也ナ○丸迹坂神名帳ハ大和國添上郡和迹坐赤坂比古神社ハ又和迹下神社ハ也ナ和赤村今ハあリ雄畧紀ハ春日和珥臣ハ也ナ坂ハ書紀ハ也ナ神武卷ハ也ナ見エ云々○丸迹池高津明宮段の大御哥ハ和迹佐ハ也ナ坂ハ也ナ見エ云々○居忌倉ハ此ハ事ハ黒田市行ハ也ナ此ハ坂ハ也ナ越ハ也ナ道次ハ也ナ○居忌倉ハ此ハ事ハ黒田宮段ハ也ナ見エ云々其ハ也ナ傳ハ廿一の八葉云々法ハ書紀ハ也ナ

はまら未幾時武埴安彦與其妻吾田媛謀反逆興軍忽
至各分道而夫從山背婦從大坂共入欲襲帝京時天皇
遣五十狹芥彦命擊吾田媛之軍即遮於大坂皆大破之
殺吾田媛悉斬其軍卒コトニキリテ乃りて次小復遣大彦與和珥
臣遠祖彦國曹向山背擊埴安彦爰以忌籠鎮坐於和珥
武鏝坂上則卒精兵進登那羅山而軍之時官軍屯聚而
躡踵草木因以号其山曰那羅山フミナラシキ乃り○和訶羅河ハ
泉川の舊名なり其由次小見ゆ○待遮凡て待云々
云依と云古語多し上ニ既遮ハ佐南岐流サヘギル訓佐南
ハ障あり伎流ハ限カキルぬ塞隔セキハガちて残云霧キリなり其
○

各中挾河而對立相挑ハ中挾を那迦尔淤伎互ナカニカキテ訓對
立を牟伎多知互ムキタチ訓法上卷黄泉段ヨミ小千引石引塞
其黄泉比良坂其石置中各對立而云々又御誓段ミウケヒ各
中置天安河而宇氣布時ウケフジ乃り依ヨ比里ヒリ置オキ書依
ハ書依ハナニオキテ乃り彼處々ナニカ傳六の九葉七の
漢文あり乃り彼處々ナニカ四十八葉四十九葉小云依と云
考合に依ハ乃り各ハ相挑オモク云乃り係比里互カキ乃り挑
ハ彼を誘サソひ動ユクう次意ぬ其より争ふ意ぬ轉比里
此ハ互タカヒ乃り誘動サソユクうて戰はむ乃り乃り進む云あり
○今謂伊豆美也此六字諸本皆細書依を今改めて本
文オミ乃り其故ハ如此言依例カクイヘ乃り考依ハ白檮原宮

段小故号其地謂楯津於今者云日下之蓼津也玉垣宮
段小故号其地謂懸木今云相樂也故号其地謂墮國
今云弟國也訶志比宮段小故号其浦謂血浦今謂都奴
賀也皆大字本文小註書協例無げ
はなり伊豆美和名抄山城國相樂郡水泉以
美郷これなり續紀州一出水郷なり万葉四
五小川津鳴泉之里尔十一宮本引泉之追馬喚大
二切也河川即木津雜式丸山城國泉河樺井渡
瀬者官率東大寺工等每年九月上旬造假橋見え万
葉一二十泉乃河尔持越流真木乃都麻乎乎九十一

小妹門入出見河乃十三真木積泉河乃速瀬十七
十小楯並而伊豆美乃河波乃又青丹余之奈良夜麻
須疑底泉川伎欲吉可波良尔馬駐古今集旅小京出
今日みろ原泉川新古今集戀小甕原涌流は泉
河此外奇し多し書紀云更避那羅山而進到輪韓河
與埴安彦挾河屯之各相挑焉故時人改号其河曰挑河
今謂泉河訛也○其箱人曾那多能比登訛訓法一明
宮段小伏隱河邊之兵彼箱以箱一時共興也なり此
加那多許那多箱ハ軍防令小左右箱ありて義解
也訓てよろし箱ハ軍防令小左右箱ありて義解
左右箱猶左右方也なり云里此處の義解乃説誤ありげ
小爾ゆはなり猶左右方也

軍ハ連波迹安王の軍也。○散ハ師の阿良氣奴也。訓
也。宜ハ書紀神代卷ニ散去を然訓也。○久須婆之
度^{ワリ}婆^字諸本ハ波^作婆^{今ハ真福寺本ニ依}。和名抄
中河内國交野郡葛葉^{久須}郷あり。是也。今ハ楠葉村
濁波を清て呼あり。和名抄ハ葛書紀繼躰卷ハ檀葉
字を書也。中古より然唯ハハヤ。宮續紀五ハ交野郡楠葉驛あり見ゆ。度ハ穴穗宮段ニ
ハ逃渡^{ニテ}政須婆之河云々也。河云々也。淀川ハ今ハ楠葉渡
也云あり。河の向ハハ。此處山城國綴喜郡乃堺ハ近
ハ淀川ハ泉河の末ハハ。河ハ傍て綴喜郡を經て
逃^{ニテ}波^ヲ追來て此渡^ノ到^リ追窮^ス也。ハハ。被

迫窮^セ而ハ勢米良延多斯那美豆^ヲ訓^テ法^ハ良延ハ良^ラ禮
の古言^{ナリ}也。上^ハ既多斯那^ハハ書紀神代卷ニ辛苦困
厄神武卷^ニハ厄欽明卷^ニハ劬勞齋明卷^ニハ困苦^{アリ}也。
然然訓^也。窮^ハ迫也。困^ハ窮^ニ困^ニ也。云。○
屎上卷^傳五。小出^ハ痛^ク辛苦^ナ困^ニ時^ハ自出^ル也。何^レ物^ヲぞ。○禪^ハ上卷^傳六の四。小出^ル也。○今者^ハ謂^フ久須
婆^ハ此^ハ六字^ニ諸本^ハ皆細書^也。今改^メ之^ル本文^ニ也。次^ハ其^ハ由^ハ
上^ハの伊豆^ニ美乃下^ハ也。同^ト。○遮^ハ此^ハ後^{ヨリ}追^ハ官^ニ軍^士
乃中^ハハ異^ニ道^{ナリ}也。前途^ハ也。迎^ハ遮^ハ也。何^レ有^リ也。
法^ハ。○如^ハ鴉^ハ浮^ル於^ハ河^ニ。宇能^ハ碁^ニ登^ル也。訓^ハ加^ハ波^ハ尔^ハ字^ハ伎^ハ多^ハ理

小理^リ何^ハ言^カ落^カ居^キ故^レ必^ズ下^ス小^ノ辞^ヲ添^フ以^テ讀^ムカ
多^ク凡^ソて假^カ字^ヲ小^ノ辞^ヲ附^シ添^フ以^テ讀^ムカハ快^ク々^々細^ク也^リ
日^ノ代^ノ宮^ヲ段^シ如^ク何^カ泥^ニ疑^フ之^ヲ ネギレ訓^ス得^ル以^テ下^ノ之^ヲ字^ハ此^ノ記
ハ假^カ字^ヲ用^ヒ公^ノ多^ク例^ハ皆^ハ得^ル以^テ下^ノ之^ヲ字^ハ此^ノ記
附^シ之^ヲ字^ヲ以^テ斯^ク小^ノ辞^ヲ以^テ當^ラ以^テ白^ノ檮^ノ原^ノ宮^ヲ段^シ
遠^ク延^ビ也^リ何^ハ必^ズ辞^ヲ附^シ添^フ以^テ讀^ムカ多^ク故^レ今^ノ也^リ
斯^レ小^ノ辞^ヲ讀^ム附^シ下^ノ乃^ハ故^レ小^ノ連^ツけ訓^ス以^テ此^ノ事^ハ上
乃^ハ遮^リ其^ノ逃^ル軍^ヲ云^フ々^々一^ト連^ツの如^ク小^ノ也^リ聞^ユ也^リ然^レ又^ハ
非^レ以^テ彼^ノ異^ニ處^ニ也^リ何^ハ一^ト事^ヲ以^テ又^ハ別^ニ一^ト也^リ
○波^ハ布^フ理^リ曾^ソ能^ハ和^ノ名^ヲ抄^シ小^ノ山^ノ城^ノ國^ノ相^ノ樂^ノ郡^ノ祝^ノ園^ノ 波布郷
何^ハ是^レ也^リ 理を省^キ呼^ビ中^ノ昔^ノ也^リ乃^ハ一^ト也^リ
祝字^ヲ書^ク本^ノ何^ハ一^ト也^リ乃^ハ一^ト也^リ

体^ト也^リ明^シ一^ト也^リ今^ノ祝^ノ園^ノ村^ニ 神名帳小^ノ祝^ノ園^ノ社^ニ也^リ
東^ノ西^ノ南^ノ北^ノ中^ノ也^リ五^ノ村^ノ也^リ 中古^ノ也^リ乃^ハ一^ト也^リ乃^ハ一^ト也^リ乃^ハ一^ト也^リ乃^ハ一^ト也^リ
乃^ハ祝^ノ園^ノ也^リ乃^ハ祝^ノ園^ノ也^リ乃^ハ祝^ノ園^ノ也^リ乃^ハ祝^ノ園^ノ也^リ
河^ノ乃^ハ事^ヲ也^リ此^ノ祝^ノ園^ノ也^リ乃^ハ泉^ノ河^ノ乃^ハ渡^リ也^リ久^ク須^ク婆^ノ也^リ
の^ノ中^ノ間^ノ也^リ何^ハ一^ト事^ヲ也^リ何^ハ一^ト事^ヲ也^リ何^ハ一^ト事^ヲ也^リ
何^ハ一^ト事^ヲ也^リ何^ハ一^ト事^ヲ也^リ何^ハ一^ト事^ヲ也^リ何^ハ一^ト事^ヲ也^リ
中^ノ間^ノの^ノ事^ヲ也^リ立^チ返^リ也^リ次^ニ云^フ乃^ハ事^ヲ也^リ記^ス以^テ一^ツの^ノ體^ニ
何^ハ一^ト事^ヲ也^リ○覆^シ奏^シ復^シを^レ覆^シ也^リ作^ル也^リ上^ニ 傳十七の也^リ
此^ノ大^ノ毘^ノ古^ノ命^ヲ日^ノ子^ノ國^ノ夫^ノ致^シ命^ヲの^ノ事^ヲ也^リ書^ク紀^ス云^フ其^ノ軍^ノ衆^ヲ
脅^シ退^シ則^チ追^ヒ破^ル於^テ河^ノ北^ニ而^シ斬^リ首^ヲ過^シ半^ニ屍^ノ骨^ノ多^ク溢^ル故^ニ号^シ其^ノ處^ヲ曰^ク
羽^ノ振^ル苑^ノ亦^チ卒^ニ怖^ル走^リ屎^ヲ漏^ル于^テ禪^ノ乃^ハ脱^リ甲^ヲ而^シ逃^ル之^ヲ知^ル不^レ得^ル免^ル叩^ク

頭曰我君故時人号其脱甲處曰伽和羅禪屎處曰屎禪
ミテイヒキヲキトカレヨノヒトソノ
カシラカシラトコラヒ
コトヲ
ハカ
ラト
分
ク
カ
ト
コ
ノ
ハ
コ
ノ
ミ
コ
ト
ノ
マ
ニ
ク
コ
レ
ノ
ク
ニ
ハ
カ
レ
オ
ホ
ビ
コ
ノ
ミ
コ
ト
ハ
サ
キ
ノ
ミ
コ
ト
ノ
マ
ニ
ク
コ
レ
ノ
ク
ニ
ハ

今謂樟葉訛也又号叩頭之處曰我君
イマ
イフ
ハ
クス
ハ
ト
ヨ
ク
ニ
シ
キ
ヤ
マ
ツ
ソ
ノ
ミ
レ
ト
コ
ラ
フ
ワ
ギ
ト
ノ
カ
カ
ノ
事
ハ
記
ス
ル
地
名
輕

嶋宮段小見えて其由縁異あり
ウエ
コ
ト
ト
シ
禪
屎
ハ
ハ
處
ハ
輕

文字脱ふる法し和君ハ神名帳ハ山城國相樂郡和伎
ウ
タ
字
脱
ル
法
シ
和
君
ハ
神
名
帳
ハ
山
城
國
相
樂
郡
和
伎

坐天乃夫支賣神社也地あり此杜ハ今大平尾小
坐
天
乃
夫
支
賣
神
社
也
地
あり
此
杜
ハ
今
大
平
尾
小

申次杜是智和伎を漏しあり其杜中ハ漏出宮也
申
次
杜
是
智
和
伎
を
漏
し
あり
其
杜
中
ハ
漏
出
宮
也

紀の我君ハ本みおキヲ三ツ訓を付ふるみ依て此和伎
紀
の
我
君
ハ
本
み
お
キ
ヲ
三
ツ
訓
を
付
ル
み
依
て
此
和
伎

なり古語ハ睦まが故あり
な
り
古
語
ハ
睦
ま
が
故
あり

故大毘古命者隨先命而罷行

マカリイマシキコハニヒムカレノカタヨリマケシ
タケ
シ
タケ
ヌ
ナ
カ
ハ

高志國爾自東方所遣建沼河

上小既小大毘古命者アあれハ此ハ與自東方所
上
小
既
小
大
毘
古
命
者
ア
あ
れ
ハ
此
ハ
與
自
東
方
所

遣建沼河別ツアハ造きハ又如此云保ハ此ハ建沼河
遣
建
沼
河
別
ツ
ア
ハ
造
き
ハ
又
如
此
云
保
ハ
此
ハ
建
沼
河

別乃方を主ツアハ造きハ又如此云保ハ此ハ建沼河
別
乃
方
を
主
ツ
ア
ハ
造
き
ハ
又
如
此
云
保
ハ
此
ハ
建
沼
河

小陸奥國會津阿比郡也
小
陸
奥
國
會
津
阿
比
郡
也

郡云々ハ大沼河別ハ白河郡ハ今分テ下ハ會津郡ハ
郡
云
々
ハ
大
沼
河
別
ハ
白
河
郡
ハ
今
分
テ
下
ハ
會
津
郡
ハ

往九城會津の山乃遙げきヤあを
往
九
城
會
津
の
山
乃
遙
げ
き
ヤ
あ
を

せらへハ。ア。フ。ホ。ヤ。混。子。あ。い。子。非。多。め。又
師ハ。近江の粟津を。ハ。口。通。音。小。相。津。云。係。な
ら。む。云。見。し。う。ゆ。是。ル。日。ろ。又。玉。垣。
宮。段。小。尾。張。之。相。津。也。又。別。姓。氏。録。波。難
忌。す。又。大。彦。命。磯。城。瑞。籬。宮。御。宇。天。皇。御。世。遺。治。蝦。夷。之
時。云。々。也。あ。係。是。此。命。う。陸。奥。ま。で。往。し。證。あり。○。往
遇。也。ハ。建。沼。河。別。命。ハ。東。方。十。二。國。を。次。第。言。向。下。里
賜。ハ。大。毘。古。命。ハ。越。の。國。々。を。言。向。於。下。里。賜。ハ。陸
奥。ま。で。二。方。より。一。小。行。會。賜。予。係。を。云。會。津。ハ。今。も。東
海。道。より。下。係。道。也。北。陸。道。より。下。係。道。也。行。會。小。地。な
里。今。世。東。海。道。より。下。係。道。ハ。常。陸。國。より。陸。奥。小。入。里。
赤。館。白。河。也。を。經。て。會。津。小。至。係。又。北。陸。道。より。下
係。ハ。越。後。國。より。二。道。あり。會。津。小。至。一。ハ。新。發。田
より。ゆ。く。と。れ。大。道。あり。今。ハ。長。岡。より。ゆ。く。形。抑

古。今。今。ハ。道。路。ハ。彼。此。變。里。ゆ。り。路。を。れ。右。の。道
道。大。抵。ハ。い。よ。く。變。也。係。に。也。ハ。係。も。た。地。あり。係。也
又。會。津。予。ハ。上。野。國。より。下。野。國。より。行。道。也。上
野。也。建。沼。河。別。命。の。下。里。賜。ハ。其。尋。小。ハ。あ。り。上
小。自。東。方。也。係。自。ハ。其。道。乃。未。ま。也。如。此。行。遇。賜。予。係
事。を。云。む。也。ゆ。り。處。あり。故。む。北。方。より。下。里。一。人。也。
行。遇。予。む。り。若。相。津。を。餘。國。也。て。ハ。か。乃。東。方。より。下。里。一。人。也。
解。也。云。係。言。也。叶。係。也。よ。味。小。係。一。係。也。あ。り。係
遙。の。國。也。行。遇。も。む。ハ。他。人。乃。相。識。也。係。也。ら。み。て
あ。り。む。も。あ。あ。は。れ。ハ。深。く。係。法。き。小。況。て。父。子。の。行。遇
給。予。ら。む。互。の。情。ハ。又。ゆ。り。と。よ。む。也。係。法。一。故。其。深。き
情。を。顯。し。む。が。も。免。小。上。小。言。更。又。其。父。也。一。も。云。係。な
係。法。一。然。ら。ば。ハ。此。ハ。其。父。也。ハ。云。係。法。一。係。法。を。更
係。法。一。ぞ。り。一。係。也。此。相。津。陸。奥。の。會。津。也。云。と。也。

世々の物知人乃今まて心おろしりしハいハカ
此記其名の由縁よてかく詳み見えし係を彼地人
也今お知らしり。○和平所遣之國政而ハ麻氣都流久迹
能麻都理基登許等牟氣豆記訓法ハ政ハ此ハ歸化
ふ者を懐け不服者をバ討て其國を平治む事云
其ハ皇朝お仕奉る事乃一ふれハなり。凡て麻都理基
天皇の詔を奉りて仕奉事云林なり。倭建命段ハ
此事傳十八の七葉お委云なり。考合次法ハ。倭建命段ハ
所遣之政ハ何ハ是ふなり。此ハ政を和平云ハ何
かや穂むらぬ如く聞ゆれ。若櫻官段ハ令奏天
皇政既平訖參上侍之。此ハ天皇の命を奉りて墨江中
見え書紀舒明卷ハ平水表政ハ何ハ古語ハ如

此ハまおル云ハ如ク法ハこれハ其政を行ひぬ
也。和平ハ云係なり。師ハ政字訖訖の誤也。所遣
ハ之也。如ク穂むらぬ如く聞ゆれ。上支也。如平訖參上見え
上卷ハ平訖參上。韋原中國之白。此ハ何ハ然也。
右の若櫻官段ハ政既平云係。書紀云詔群臣曰今
例ハ何ハ政字誤ハ何ハ。書紀云詔群臣曰今
反者悉伏誅畿内無事唯海外荒俗騷動未止其四道將
軍等急發之云々。將軍等共發路十一年夏四月壬子朔
己卯四道將軍以平戎夷之狀奏焉。此ハ海外ハありハ
外ハ非ハ。又四道將軍ハ夏四月同日ハ復命セ
ルハ。漢文の御色ハよりて。ハ何ハ何ハ
。 。

カレ アメノシタ タヒ ラギ オホミタカラ トミサカエキ コ、ニ ハジメテ

爾天下太平。人民富榮。於是初

ヲトコノユハズノミツギ ヲチノタナスルノミツギヲタテマツラシメタニヒキ

令貢男弓端之調。女手末之調。

カレソノミヨヲタ、ヘマツリテハ、ツクニシラシ、ハ、ミ

故稱其御世。謂所知初國之御

マ キノスメラミコト、マラス

眞木天皇也。

太平ハ多比良岐ヲ訓法シ。書紀景行卷仁德卷あやハ

也。然訓皇垂仁卷ハ人民富足天下太平也。ハ。〇男

ハ表寺古ヲ訓法シ。記中表寺古ハ壯夫ヲ書テ少壯

ハ云男字ハ。表云ハ。又老少ハ

いはハ。表寺古表美那云ハ。万葉

ハ。秋野尔波今云ハ。乃ハ。平寺古平美

奈の花ハ。見。此哥ハ。三四二五ハ。句ハ。次第

ハ。〇弓端ハ。由波受ハ。訓法シ。和名掛

ハ。釋名云。弓末曰彌。和名由美波教ハ。多クハ美

皇弓彈ハ。波受ハ。弓末の端ハ。在テ

角又骨ハ。以テ造ル物ナリ。万葉十六ハ。の哥ハ

鹿の言 吾爪者御弓之弓波受也
を以てり造里しおる法し又一ハ小梓弓之奈利弭乃
音為奈利オトスナリ今本ハ海上の利二三丁ニ取持流弓波受乃
驟云々聞之恐久あやほるハ射亦音高く鳴係があ
里しあやしく聞ゆ又ハ古の弭ハあし法て然り
詳なり今ハ音高くハ非矣箭小ハ苦也云是あり
此ハゆぐ弓の弁云てある法きを弓端也云係ハ
言乃文あり弓端也云係ハゆぐ言の文ふく其ハ弓な
故ハ弭ハ弓末ニ然云物あり其由受也訓法き其
ハ唯弓のあや小其狭き名を云むとやハいりバおら
む未也ハ末のちを廣く云言ふハ弓のちや小然云
むハ似たりはくある法し弓小末也云ハ常あり末の

枕詞ハ波受ハ一處乃名ふくハ由波受也云ておのち
うり弓末のちや小ハおらハ弭の方小由あり未也
あやかり又端字も末ありハ弭の方小由あり未也
はやがて末字を書き添き小然らばハ波受あり故り
弭字切やハ遠き字もそのりハ波受あり故り
且弭末ニ對してハ由受惠也云むありハ言をわすて
由波受也云今抄○女ハ表美那也訓○手末ハ上卷
傳十四の文ハ勝也○調ハ美都岐也
二十葉のハ出テ手佐伎也云むが如し
訓遠飛鳥宮段ハ御調也書里書紀ハ調又賦ありみ
美都岐又美都岐母能也訓紀ハ直をり然訓里故達朝
貢まじ脩貢職あやを美都岐多豆麻都流也訓里ハ
美都岐也云名義ハ美ハ御都岐ハ都具也射言おら

ふふく御供給あり。給ハ相足也。此字常ハタマフ
了訓テ上ヨリ下ニ賜ふ。此字常ハタマフ
心得たれ。然リ非。俗言ハ人
物を着給。云都具。同言ハ。續ク依意あり
ハ御調。云ハ公。用ハ賜。諸乃物。下ヨリ供給奉
依意の名あり。引。万葉十ハの哥。万調。書紀
乃訓。小見。拾遺集。調。給。月。作。朝廷。貢。依。物
の衣。云。う。け。て。よ。え。依。哥。ハ。り。ハ。朝。廷。ハ。貢。依。物
ハ。諸。物。子。美。都。岐。ふ。田。租。小。美。都。岐。の。内。あり。ハ。
次。引。万。葉。十。八。常。ハ。田。租。乃。外。小。貢。依。種。々。物。を。美
の。哥。ハ。知。法。ハ。常。ハ。田。租。乃。外。小。貢。依。種。々。物。を。美
都。岐。ハ。云。里。此。ハ。然。り。ハ。字。ハ。調。庸。賦。貢。ふ。ハ。其。大
形。ハ。い。は。く。調。ハ。次。小。委。く。云。如。し。庸。ハ。役。ハ。赴。者。の
赴。ハ。れ。バ。其。日。數。ハ。次。小。委。く。云。如。し。庸。ハ。役。ハ。赴。者。の

御制ハ一日の代布二尺六寸あり。庸布ハ云物ハ
是あり。賦ハハ。依。類。の。事。を。凡。云。名。あり。別。ハ。一。ア
依。ハ。非。次。貢。ハ。賦。ハ。同。意。ハ。ガ。万。葉。一。丁。ハ。山。神。乃
奉。御。調。等。春。部。者。花。挿。頭。持。云。々。神。ハ。天。皇。ハ。奉。御。調
云。云。ハ。依。ハ。り。云。ル。ハ。下。ハ。ハ。八。丁。ハ。小
ハ。依。物。ハ。信。ハ。皆。神。ハ。貢。賜。ハ。御。調。あり。け。ハ。八。丁。ハ。小
天。乃。日。嗣。等。之。良。志。久。流。伎。美。能。御。代。々。之。伎。麻。世。流
四。方。國。爾。波。山。河。乎。比。呂。美。安。都。美。等。多。豆。麻。豆。流。御。調
寶。波。可。蘇。倍。衣。受。都。文。之。毛。可。祢。都。又。三。丁。須。賣。呂。伎。能
之。伎。麻。須。久。尔。能。安。米。能。之。多。四。方。能。美。知。尔。波。宇。麻。乃
都。米。伊。都。久。須。伎。波。美。布。奈。乃。倍。能。伊。波。都。流。麻。泥。尔。伊
尔。之。敝。欲。伊。麻。乃。平。都。頭。尔。萬。調。麻。都。流。都。可。佐。等。都。久

里多流曾能奈里波比乎。この稻穀を萬の調乃司云
此を以て見せ、田租六十五。小御食都國日之御調等。
淡路乃野嶋之海子乃海底奥津伊久利ニ、鮫珠左盤尔
潜出船並而仕奉之。貴見札者北五丁。伎己之米須四
方乃久尔欲里多互麻都漆美都奇能船者云々。金葉集
賀ニ調物運ぶ丁を計ふ也。二万の郷人数をひひけ
里乃何り、作て上代の調乃御制ハ如何何りけむ。細
事ハ知がふ。孝徳紀ニ大化二年春正月甲子朔
宣改新之詔曰云々。其四曰罷舊賦役而行田之調。凡給
絶絲繅並隨郷土所出。田一町給一丈。絶二丈。布四丈。綿

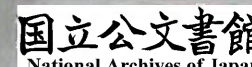
約屯諸。別収戸別之調。一戸賞布一丈二尺。凡調副物。塩
處不見。別収戸別之調。一戸賞布一丈二尺。凡調副物。塩
贅亦隨郷土所出。云々。右文を畧して引置。秋八月庚申朔
癸酉詔曰。凡調賦者可收男身調。此ハ正月朔定免。凡
色改免。男身調。凡調。給絶絲綿布。并隨郷土所出。正丁一人。給絶八尺五寸。六丁成足。絲八
兩。綿一斤。布二丈六尺。並二丁成。約屯端若輪雜物者云
云。雜物の色目ハ此ハ次丁二人。中男四人。並准正丁
一人。其調副物。正丁一人云々。副物の色目。京及畿内
皆正丁一人。調布一丈三尺。次丁二人。中男四人。各同一
正丁。正丁ハ男の年九一より六十五まで。六十五より
正丁ハ六十一より六十五まで。あつて殘疾者ハ殘

云。中男ハ十七より二十まで。右の種々、
物也一人別ハ皆輸スハ非。或ハ給或ハ布何ハ其
其土地より出ル物也。一色ハ輸ス。雜物副物も然
り。諸國貢物ハ右此調の外ハあり。諸國各其國內
乃調を收集ス。國司郡司これ部領して京上呈
大藏省ニ納む。其使を貢調使云。不調ノ事。休
賦役令民部式主計式ナリ。不奪見。考見。休
て此ハ弓端之調云。弓以て射獲ル。獸乃肉。又其
皮。乃類を貢。上代ハ常ニ獸肉を食。
又其皮を衣。袴。あや。せ。あや。多。し。故。其を
主。如。此。ハ。云。休。野。彼。仁。德。紀。の。佐。伯。部。が。鬼。餓
乃事を記して。今神祇之祭。用。熊。皮。鹿。皮。角。布。等。此。縁。也
也。云。呈。然。係。令。式。の。と。ろ。小。至。く。ハ。凡。し。獸。を。用。ひ。し。然
也。と。云。や。稀。り。見。え。調。の。雜。物。の。中。ハ。然

休物ハ見。一隻。副物の中ハ猪。脂。三。合。腦。一。合。五。勺。鹿。角
一頭。鳥羽。一隻。また。諸國貢物の中ハ皮。革。羽。毛。等
見。え。休。の。あ。り。主。計。式。ハ。大。鹿。皮。一。張。小。鹿。皮。二
張。鹿。猪。脯。雉。腊。鹿。猪。鮓。猪。膏。鹿。角。緋。革。等。見。え。あ。り。
但。男。乃。調。上。代。ハ。弓。を。以。て。獲。る。物。の。み。ハ。限。ら。ず
呈。け。免。也。女。の。手。末。云。又。對。了。ハ。わ。く。云。休。ハ。言。乃
文。乃。手。末。之。調。ハ。女。乃。手。一。又。造。也。休。物。子。也。給。布。也
乃。類。を。貢。休。を。云。姓。氏。録。ニ。調。首。百。濟。國。努。理。使。主
仍。賜。給。絶。之。様。凡。し。手。一。也。あ。や。を。手。末。云。雄。畧。紀
ハ。手。末。才。伎。也。休。ハ。手。休。き。め。造。也。物。也。造。也。匠
也。云。乃。右。乃。孝。德。紀。及。令。ハ。依。也。ハ。調。を。貢。休。ハ。男
乃。子。也。休。也。女。ハ。貢。休。也。乃。子。也。休。也。女。の。手。一。也

造也。体物を女乃調は云。神功紀。新羅王が毎年貢男女之調。白せ体也。然。爾ゆれば。此。新羅調。非。彼國の女乃貢。体也。又。男の貢。体。後の御制。凡。漢國の唐乃。制。依。多。物。あり。上代。女。貢。是。ゆ。り。也。決。て。云。わ。し。上代。乃。語。凡。如。此。子。と。云。わ。し。文。を。な。り。て。弓。端。之。手。末。之。ふ。語。呈。傳。牙。も。る。ハ。い。や。も。先。を。多。く。雅。也。物。な。り。ハ。初。令。貢。也。ハ。初。令。其。制。を。立。も。ま。り。体。云。わ。し。法。し。き。は。や。り。の。定。ま。れ。る。お。や。り。に。あ。り。云。わ。し。先。身。乃。ち。ゆ。り。ハ。御。調。貢。体。也。ハ。既。く。是。より。先。の。御。

代々々。ゆ。り。必。あ。り。法。き。事。な。れ。ば。ゆ。り。書。紀。ハ。十三年。春。三月。詔。云。々。宜。當。此。時。更。授。人。民。令。知。長。幼。之。次第。及。課。役。之。先。後。焉。秋。九月。始。授。人。民。更。料。調。役。此。謂。男。之。調。女。之。手。未。調。也。此。詔。調。ハ。例。の。撰。者。乃。か。ど。り。ハ。作。上。代。の。意。言。ハ。非。也。然。也。更。授。云。々。更。料。云。々。ハ。あ。り。ハ。初。授。ハ。非。也。云。々。云。々。ハ。授。人。民。ハ。係。て。云。々。委。曲。な。り。云。々。ハ。云。々。ハ。稱。ハ。多。々。閑。也。訓。書。紀。ハ。ホ。マ。コ。ス。同。書。紀。神。代。卷。ハ。稱。辭。ハ。見。え。式。の。諸。乃。祝。詞。ハ。稱。辭。竟。奉。也。云。々。ハ。甚。多。し。皆。多。々。閑。許。登。也。訓。書。大。神。宮。儀。式。帳。ハ。天。津。告。刀。乃。太。告。刀。乃。厚。廣。事。遠。多。々。倍。申。也。云。々。



聖言の意ハ水乃満々ミナ海色多々タ閑多理タ云云シ同くし
て言を至イタ極キハ欠満足タラハ一キ稱賛ホム海意イハ一キ祈年祭詞ヨ四方國チ
辭竟奉コト云ス竟ス其意イふればナリ祈年祭詞ヨ四方國チ
者天能壁立極ハ國能退立限ノ青雲能靄極ノ白雲能墜坐向ノ
伏限ノ青海原者ハ掉抄ノ不干ノ舟艦能至留極ノあレ何所類ノ并
言を至極イタ欠足タラハ一キ物ありキ又推古紀ノ稱其ノ名ヲ
太子天武紀ノ小謚曰大三輪ノ真上田迎ノ君ノ也ノ其ノ訓ハ
賛ホム稱ヲふを多ク登ル用ル云ハ何ナリ然レ云ハふクゆク名ハ九ノ物ヲ
積置ツキ互ツふク天ヲ皇ヲ贊ヲ申シ又常ニ常ニ磐ノ尔ノ堅キ磐ノ尔ノ云ハリ
磐ノ如クくハ云ハ警ニ云ハ何ナリ又常ニ常ニ磐ノ尔ノ堅キ磐ノ尔ノ云ハリ
多ク登ル布ク云ハ何ナリ法ヲ依テ思フバカリト稱ヲ辭ヲ
多ク閑シ許ス登ル云ハ何ナリ法ヲ依テ思フバカリト稱ヲ辭ヲ
波都久迹ハ斯羅志ハ斯ハ訓ニ至ル此ニ稱ハ辭ハ後乃御世ニ至テ

らむ此ノ稱ハ辭ハ訓ニ外ハ外ハ贊ニ依テ云ハリ云ハ
例見エズレバハ何ナリ然レ也ヲ又レ稱ヲ多ク登ル閑シ云ハリ云ハ
右ノ書紀ノ乃ハ訓ニ外ハ外ハ見エズレバハ
今ハ奮ニのまハカ多ク閑シ許ス登ル云ハ何ナリ法ヲ依テ思フバカリト稱ヲ辭ヲ
波都久迹ハ斯羅志ハ斯ハ訓ニ至ル此ニ稱ハ辭ハ後乃御世ニ至テ
申セ言ヲあル法ヲ其御世ニ云ハ又大御名ヲ申セリ云ハ
那ノ當コ御世ニ申セリ物ヲはハ聞エレバ何ナリ故所知キ
色ハ斯羅須レ須レ斯羅志ハ斯ハ訓ニ至ル此ニ稱ハ辭ハ後乃御世ニ至テ
羅須ニイリ子バ書紀ノ神武ノ卷ニ故古語ヲ稱ヲ之曰於ノ畝傍ノ之ニ
今ノ事ヲハカ書紀ノ神武ノ卷ニ故古語ヲ稱ヲ之曰於ノ畝傍ノ之ニ
橿原也太立宮柱於底磐之根峻峙搏風於高天之原而
始ハ馭ク天下ニ之ニ天皇ノ見エ孝德ノ卷ニ自始治國ノ皇祖ノ之ニ
時ニ云ハ々ハ見エズレバハ何ナリ法ヲ依テ思フバカリト稱ヲ辭ヲ

申して更ぬ又此ゆゆ。如此申せる故ハ是より先ハ
いまご服ハゆゆ一遙の國々まで。初て皇化乃ゆきぬ
らほして。天下悉く太平ぬ。御世あれハゆゆ。云也
し。が如し。ゆて初てゆ言ハ。所知ゆ係法きを。國ハ係
ゆハ如何。云ゆ。ま。初國ハ。所知者ハ限る地を云名
ゆ。此。事既ハ出。食國ハ。云。里。然ふ。天下悉くハ。此御
世ハ至る。初て現。食國ハ。ゆ。ゆ。意。其。食
國を指て。初國ハ。云。ゆ。初て食國ハ。ゆ。ゆ。國ハ
云。む。が。如し。書紀云。是以天神地祇共和享而風雨順時
百穀用成家給人足。天下太平矣。故稱謂御肇國天皇也。

又^{マタ}是^コ之^ノ御^ミ世^{ヨニ}作^{ヨサ}依^サ網^ニ池^ノ亦^イ作^ケ輕^{ツク}之^リ酒^イ折^ケ池^ラ也^{シキ}。

依網池。此地の事ハ。伊邪河宮段依網之阿毘古乃下
二の七。小委云。里池ハ。書紀ハ。六十二年冬十月。造依
網池。ゆ。ゆ。推古。卷ハ。十五年冬。河内國作依網池。ゆ。ゆ
也。ハ。河内國丹比郡の依羅郷ハ。ゆ。ゆ。此。記高津宮
段ハ。作依網池。ゆ。ゆ。同ト。今丹比郡池内村ハ。云。ゆ
ゆ。此。御世ハ。作。ゆ。ゆ。推古紀。ゆ。ゆ。別ハ。ゆ
ゆ。今ハ。攝津國住吉郡庭井村乃邊ハ。ゆ。ゆ。池。ゆ。ゆ。

了云り其池の事傳北二。かの依網の処に竟寧集注を引く。考合流法。然るに其池古乃依網池と云き。古書に證し見え。河内國なるに。此彼を證あむ。推古紀に作し。御世に作す。又高津宮段に云。推古紀に作す。又更修理直に作す。浅世に作す。云。坊。明宮段の大御哥。美豆多麻流。余佐美能伊氣能。韋具比。宇知。河。此池あり。此の書紀に。大雀命の御哥。國若江郡に。此池も同國に。由あり。此上ある作字に。無き本あり。其もあ。非。下。作。は。讀。依網池。亦輕之。○輕之酒折池。輕の境。酒折池。作。依網池。亦輕之。宮段。出。傳北一の酒折池。此より外に物を見え。名例の倭建命段。酒折宮あり。此の書紀に。

依網池を作ら。十一月。作。坂池。反折池。有。坂。輕坂。反折。佐加表。理。訓。法。き。若。然らば。此記。の反字。坂の誤り。又一本に。及。以。依。折。池。此記。酒。字。池。の誤。む。は。書紀。酒。字。の脱。左右。互。ま。は。定。先。難。け。是。姑。本。の。隨。訓。法。玉。垣。宮。段。及。應。神。紀。一。万。葉。三。の。歌。輕。池。見。え。又。同。卷。十二。卷。中。獵。路。池。よ。免。路。輕。路。の。池。あり。師。云。此。輕。池。酒。折。池。云。別。詳。文。振。津。國。住。吉。郡。

小遠里小野村云云。今現小野之平能乎。呼言ハ。万葉七又十六。住吉之遠里小野之。今本の訓。は誤。小表。乃表。怒乃。六言。よむ。法き。形。此。あ。折。池。被。地。あ。池。こ。せ。あ。乃。あ。め。

天皇御歳壹佰陸拾捌歳御陵

在山邊道勾之岡上也。

御歳壹佰陸拾捌歳書紀云ハ。六十八年冬十二月戊申朔壬子崩時年百二十歳云云。是依也。大御父天皇の九年小生坐依也。

里然云其二十八年正月立為皇太子。十九年。ハ。一年差。其年ハ二十歳。云云。又。乃。十。九。云云。依。云云。或書ハ。百九十七。云云。○舊印本真福寺本又一本云云。此。次。云。戊申年十二月崩。云七字の細註あり。今ハ延佳本又一本ハ無き。依也。里抑如此。云云。細註。此。より。次々。乃。御世の段。云云。往。往。あり。下。卷。あり。御世々々。ハ。無。き。ハ。少。ハ。云。ハ。子。後。云。書。加。云。云。物。云。云。一。云。云。誰。ハ。思。云。云。云。云。ハ。猶。熟。思。云。云。是。ハ。甚。古。き。事。云。云。思。ハ。云。云。其。故。ハ。何。云。云。其。支。干。年。月。皆。書。紀。ハ。記。せ。云。云。異。云。云。云。云。下。卷。の。最。末。云。云。至。云。云。云。云。書。紀。云。云。合。云。云。云。云。

く後世乃人の所為ありむゆり。必書紀の年紀トシカテ依て
あそ記況ヨリトコロ法き必彼紀トシカテ同トありゆり。必他古書トシカテ
據ありてヨリトコロ此トシカテ見えぬればゆり。支干年月トシカテ
書紀の如き乃所あり非トシカテ此トシカテのあり古書トシカテ各異
ゆり。此トシカテ注若後世人あり。正しく合トシカテま
きこゆりゆり。此トシカテ注若後世人あり。正しく合トシカテま
ゆり。古書トシカテ乃遺トシカテ此トシカテ注若後世人あり。正しく合トシカテま
て其トシカテ據トシカテゆり。最末トシカテ至トシカテ書紀トシカテ合トシカテゆり。近御
代トシカテ詳トシカテあり。何の書トシカテ異トシカテゆり。故トシカテあり。法
又此御世トシカテ先の段トシカテあり。此トシカテ注トシカテあり。其據トシカテ
は書トシカテ向化天皇トシカテまで。崩の年月トシカテ記トシカテゆり。故
ゆり。此トシカテ後世人あり。必書紀トシカテ依て。故思トシカテ
神武天皇トシカテより。以来トシカテ漏トシカテ皆注トシカテ法きゆり。故思トシカテ
必若くハ安麻呂朝臣のトシカテ一書トシカテ據てトシカテ自書トシカテ加戸トシカテらぬ

依物ゆりありむゆり。本文トシカテ子書トシカテ連トシカテけ文トシカテして。細注トシカテあり。私トシカテ
加戸トシカテらぬ。ゆり。此トシカテ彼朝臣トシカテハ非トシカテ法トシカテ必古トシカテき世
物あり。故トシカテゆり。ゆり。此トシカテ彼朝臣トシカテハ非トシカテ法トシカテ必古トシカテき世
乃人の志トシカテゆり。ゆり。此トシカテ彼朝臣トシカテハ非トシカテ法トシカテ必古トシカテき世
此トシカテを。已トシカテ。彼紀トシカテ合トシカテ。此トシカテ返トシカテ然トシカテ此トシカテゆり。今トシカテこれトシカテ取トシカテ
る。心トシカテふく。思トシカテあり。此トシカテ然トシカテ此トシカテゆり。今トシカテこれトシカテ取トシカテ
ゆり。故トシカテハ。稗田老翁トシカテが誦傳トシカテあり。勅語トシカテの舊辞トシカテハ非
ト見ゆればゆり。此トシカテ戊寅年トシカテハ書紀トシカテあり。此トシカテ御世
此五十五年トシカテあり。十三年トシカテの差トシカテあり。此トシカテ一書トシカテの年紀
ゆり。必書紀トシカテハ非トシカテ此トシカテ月トシカテハ合トシカテ京里トシカテ。山邊道トシカテ勾トシカテ之トシカテ固
上書紀トシカテハ明年トシカテ秋八月甲辰朔甲寅トシカテ葬于山邊道上陵トシカテ
見元又垂仁トシカテ卷トシカテハ元年トシカテ冬十月癸卯朔癸丑トシカテ葬トシカテあり。

かく忽タチめ月日の違諸陵式ハ山边道上陵磯城瑞籬宮
御宇崇神天皇在大和國城上郡兆域東西二町南北二
町守戸一烟ハあり。又タ衾田タ墓ハ手白香皇女在大和國山
陵戸兼守ハあり道ハ上陵ハあり書紀ハ依テ記スれ
ゆる名ハなり然レ子ハ此ハ記ハの如ク勾ノ園ノ上ノ陵ハあり
乃ハ延喜のころも如此ハ申スる如ク道ノ上ノ又ハ景行
天皇の御陵ハ山边道上ハありハ紀ハ此ハ記ハ書ハ相ハ近シき
地トコロはハ山邊ハ和名抄ハ大和國山边ハ乃ハ倍ノ郡ハあり
里ハ神名式ハ山边御縣坐神社ハありハ此ハ郡ハ城
上郡乃北ハ隣ハ法里後撰集ハ初瀬戸諸ハありハ山边ハ
云々ハあり伊勢草枕旅ハありハあが山の边ハ白雲

初瀬戸ハ宿ハむ更科日記ハ初瀬戸ハ宿ハむ更科日記ハ
の次ハ其夜山边ハ云處の寺ハ宿ハむハてハあが見ハえハ中
昔まで山边ハ云地トコロのありハもハ其地ハ名ハより郡ハ名ハ
もハなりハありハはハてハ其山边ハ云ハ山边郡乃南方より
城上郡乃ありハ廣き地名ハありハ此ハ二ハの御陵崇神の
ありハはハ城上郡ハ属ハ地ハありハなりハありハ山边郡乃
此御陵戸ハ兼守ハらハむハむハありハありハ御陵ハありハ此御
陵の山边郡乃境ハありハ近ハきハなりハ知られハありハ御
陵乃山边隣ハの郡名ハの山边ハ本ハ一ハありハありハはハて
道ハ勾ノ之ノ園ノハハ道ハハハ長谷乃方ハより山城國の方ハ往ハ来ハあり
大道ありハ此ハ筋ハ今世ハもハ勾ノ之ノ園ノ云ハハハ其大道の曲ハる處

在故の名ありは、山邊、勾之田、此御陵大道の近き邊なり。故ありは、書紀、此御陵大和國、大和國内、此彼見え、此圖の名あり。

南陵畔有家四ツ云里。前皇廟陵記云、或曰、今、東山、半、俗、云、宇和奈利山、亦云、玉身墓、也。

夫の七八町東の山、ぎ、ほ、岩、屋、ニ、あり、て、各、深、三、五、六、丈、あり、奧、石、擲、あり、毎、年、乃、十、二、月、晦、日、の、夜、ハ、お、乃、ひ、り、み、其、上、の、燈、あり、又、其、外、ハ、あ、や、ヒ、事、也、の、二、乃、御陵、ハ、非、ハ、荒、木、田、久、老、云、柳、本、村、より、東、の、山、ニ、あり、家、山、ニ、あり、其、一、ハ、坂、を、上、所、ハ、在、て、廻、り、池、あり、側、ハ、小、き、家、ハ、二、あり、今、ハ、山、を、佐、牟、那、山、ニ、云、あり、ハ、御陵、山、を、訛、レ、今、ハ、池、ハ、其、山、の、東、の、上、方、ハ、あり、て、此、ハ、同、ト、狀、ハ、廻、り、池、ハ、山、乃、上、ハ、小、ハ、基、石、を、敷、覆、り、ニ、疑、ハ、ふ、く

御陵見えり。崇神景行共ハ山邊道上。上ハ此御世乃御陵。此上ハ道下の誤。此上ハ道下の誤。此上ハ道下の誤。

云、道邊云々。崇神の御ハ、高き處ハ、方、久、老、云、云、ハ、皆、ツ、ハ、別、ア、リ、詳、ハ、交、國、人、の、云、云、ハ、久、老、云、云、ハ、皆、ツ、ハ、別、ア、リ、詳、ハ、交、國

又、歷代の御陵の、今、時、乃、圖、レ、テ、書、レ、見、ル、ハ、何、レ、の、御、也、詳、カ、ク、ハ、御、陵、也、ハ、中、ハ、澁、谷、村、ハ、連、キ、和、志、ハ、云、云、ハ、一、ツ、別、カ、ク、大、方、ハ、此、ハ、大

乃、御陵見えり。崇神景行共ハ山邊道上。上ハ此御世乃御陵。此上ハ道下の誤。此上ハ道下の誤。此上ハ道下の誤。

詳ツラめハ云クガク一ク好クキクヨク
考ク了クて定ムむ法キあり



[Faint, mostly illegible handwritten text in kuzushiji script, arranged in vertical columns.]

